



研究報告書

高齢者の口腔保健状況に関する国際比較 データバンク作成のための データ収集

[II]

野村義明

川口陽子

下山和弘

平成 15 年 3 月

財団法人 8020 推進財団

高齢者の口腔保健に関する国際データバンク構築のための基礎データの収集

主任研究者：野村義明（8020 推進財団、鶴見大学歯学部予防歯科学講座）

分担研究者：川口陽子（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

下山和弘（東京医科歯科大学大学院口腔老化制御学分野）

わが国の 65 歳以上の老齢人口は 2300 万人を超え、その総人口に占める割合は 18.5%（総務省 2002 年 9 月推計）となっており、他国と比較して急速に社会の高齢化が進み、わが国はすでに高齢社会に突入している。高齢社会では社会の負担を軽減し社会の活力を維持するため、高齢者の自立を支援し、また、高齢者の健康の維持・向上を図ることが重要である。

介護・看護の分野では、誤嚥性肺炎と口腔ケアとの関連が最近 10 年ほどで急速に注目を集めようになつた。適切な口腔ケアを行うことにより誤嚥性肺炎が予防できるという報告が行われており、老人施設では誤嚥性肺炎の予防のために口腔ケアの取り組みを開始するところも多くなってきた。今後、さらに高齢者の口腔保健と全身の健康との関連について人々の関心が高まると考えられ、また高齢者の健康の維持・増進のためにも口腔ケアの知識・技術を高めていく必要があるだろう。

わが国の平均寿命は男性 78.1 歳、女性 84.9 歳（2001 年簡易生命表）で、世界第 1 位である。世界各国の平均寿命をみると、日本のように女性の平均寿命が 80 歳を超えている欧米諸国もあれば、平均寿命がいまだ 50 歳未満というアフリカ諸国など、さまざまである。平均寿命がそれほど長くない国、すなわち総人口に占める高齢者の割合が低い国では、高齢者の歯科保健問題への関心は低く、その対策は遅れているのが現状である。しかしそのような国においても、将来、医療や経済状況の改善により寿命が延び、高齢者対策が必要となってくる時代が来ると考えられる。

したがって世界一の長寿国であるわが国から、海外に向けて歯科保健情報を発信することは、世界各国の高齢者歯科保健対策を進展させるために非常に大切なことである。そこで、世界各国の高齢者に関する口腔保健情報を収集して、高齢者の口腔保健に関する国際データバンクを構築するために、平成 14 年度は以下の 3 つの研究を実施して基礎データの収集を行つた。

I . WHO データバンクによる高齢者の無歯顎者率の国際比較（東京医科歯科大学大学院）

II . 5 カ国の歯科疾患実態調査からみた高齢者の歯科保健状況（東京医科歯科大学大学院）

III . 日本と海外の歯科疾患実態調査の国際比較（8020 推進財団、鶴見大学歯学部）

目次

| | |
|---|-----|
| I. WHO データバンクによる高齢者の無歯顎者率の国際比較 | …4 |
| 表 I-1 187 の国・地域における 12 歳児の DMFT と高齢者の無歯顎者率の国際比較 | …7 |
| 表 I-2 36 の国・地域における高齢者の無歯顎者率とその出典（情報ソース） | …11 |
| 表 I-3 歯科保健に関する国際目標（WHO/FDI） | …12 |
| 図 I-1 65 歳の無歯顎者率の国際比較 | …13 |
| 図 I-2 65 歳以上の無歯顎者率の国際比較 | …13 |
| 図 I-3 65-74 歳の無歯顎者率の国際比較 | …13 |
| II. 5 カ国の歯科疾患実態調査からみた高齢者の歯科保健状況 …14 | |
| 資料 II-1 アメリカの歯科疾患実態調査の概要 | …17 |
| 資料 II-2 中国の歯科疾患実態調査の概要 | …18 |
| 資料 II-3 韓国の歯科疾患実態調査の概要 | …19 |
| 資料 II-4 タイの歯科疾患実態調査の概要 | …20 |
| 資料 II-5 スリランカの歯科疾患実態調査の概要 | …21 |
| III. 日本と海外の歯科疾患実態調査の国際比較 …22 | |
| 1. 6 カ国（日本、アメリカ、中国、韓国、スリランカ、タイ）の比較 | …22 |
| 図 III-1 無歯顎者率の比較 その 1 65-74 歳（男女計） | …23 |
| 図 III-2 無歯顎者率の比較 その 2 65-74 歳（男性） | …24 |
| 図 III-3 無歯顎者率の比較 その 3 65-74 歳（女性） | …25 |
| 図 III-4 無歯顎者率の比較 その 4 日本とタイの比較 60-69 歳 | …26 |
| 図 III-5 未処置歯数の比較 | …27 |
| 図 III-6 喪失歯数の比較 | …28 |
| 図 III-7 処置歯数の比較 | …29 |
| 図 III-8 DMF 歯数の比較 | …30 |
| 図 III-9 日本とタイの比較 | …31 |
| 2. 日本と各国の 2 カ国間の比較 | …32 |
| 図 III-10 日本とアメリカの比較 無歯顎者率 | …34 |
| 図 III-11 日本とアメリカの比較 一人平均現在歯数（有歯顎者のみから算出） | …35 |
| 図 III-12 日本とアメリカの比較 一人平均 DFT | …36 |
| 図 III-13 アメリカ 未処置歯、処置歯の割合 | …37 |
| 図 III-14 日本 未処置歯、処置歯の割合 | …38 |
| 図 III-15 日本と中国の比較 喪失歯の割合 | …39 |
| 図 III-16 日本と中国の比較 無歯顎者率、28 歯、20 歯以上あるものの割合 | …40 |
| 図 III-17 日本と中国の比較 現在歯数 | …41 |

- 図 III-18 日本と韓国の比較 龛歫罹患率の比較…42
- 図 III-19 日本と韓国の比較 未処置歯数の比較…43
- 図 III-20 日本と韓国の比較 喪失歯数の比較…44
- 図 III-21 日本と韓国の比較 処置歯数の比較…45
- 図 III-22 日本とタイの比較 20 歯以上あるものの割合…46
- 図 III-23 日本とスリランカの比較 一人平均現在歯数…47
- 図 III-24 日本とスリランカの比較 無歯顎者率の比較…48
- 図 III-25 日本とスリランカの比較 義歯装着者の割合…49
- 図 III-26 日本とスリランカの比較 一人平均喪失歯数の比較…50
- 図 III-27 日本とスリランカの比較 喪失歯数の割合…51

I. WHO データバンクによる高齢者の無歯顎者率の国際比較

方法

平成 14 年 10~11 月に、インターネットを利用して、WHO Oral Health Country/Area Profile Programme に掲載されている Oral Health Profiles for Countries (<http://www.whocollab.od.mah.se/countriesalphab.html>)を通して情報収集を行った。Oral Health Profiles for Countries にはアルファベット順に世界 203 カ国・地域が掲載されており、その中には 12 歳児の DMFT や無歯顎者率などのデータが記載されている。(注:Dental Caries に DMFT などが、Tooth Morality に無歯顎者率や喪失歯数が記載されている。記載内容は国により異なる) そこで、1 カ国ずつホームページを開いて、無歯顎者率が記載されているか否か確認を行った。また、調査を行った年、対象年齢、データの出典(情報ソース)などの情報も収集して、国際比較を行った。同時に、各国の 12 歳児の DMFT についてもデータ収集を行った。

注:) D:治療をしていない歯の本数、未処置歯数

M:喪失してしまった歯の本数、喪失歯数

F:齲歯の治療がしてある歯の本数、処置歯数

DFT:未処置歯数と処置歯数の合計の歯の本数

DMFT:DFT に喪失歯数を加えた歯の本数、齲歯を経験した歯の本数を表す

結果

WHO の Oral Health Profiles for Countries には、203 の国名・地域名が掲載されていたが、歯科保健に関する情報があったのは 187 の国・地域であった。その 187 の国・地域の中で、高齢者に関する無歯顎者率を掲載していたのは 36 の国・地域であった。一方、12 歳児の DMFT に関する情報は、187 すべての国・地域で記載されていた(表 1・1)。

無歯顎者の調査を行った高齢者の対象年齢としては、65 歳、65 歳以上、65-74 歳などが多くかった。年齢は国・地域によって異なり、統一されていなかった。また、データの出典(情報ソース)として、学術論文や報告書を挙げたものもみられたが、Chief dental officer(歯科保健部長)を挙げた国が 10 カ国あった(表 1・2)。

無歯顎者率が最も高かったのはボスニアヘルツェゴビナの 78% (65 歳) であり、次いでポルトガルが 72%(65 歳) であった。無歯顎者率が 70% を越える国はこの 2 カ国のみであった。次いで無歯顎者率が高かったのは、アルバニア 69% (65 歳)、オランダ 61.0% (65 歳)、カナダ 58.0% (65 歳以上) であった。

各国の無歯顎者率を年齢別に図 I・1~3 に示す。シンガポール、スウェーデン、アメリカは対象年齢が異なるために図には記載していない。

無歯顎者率が高かった 5 カ国の 12 歳児 DMFT はボスニアヘルツェゴビナ 6.1、ポルトガル 3.1、アルバニア 2.9、オランダ 0.65、カナダ 3.0-3.7 であり、オランダを除いては比較的高い値であった。

考察

WHO のデータバンクには、高齢者の歯科保健状況を示すものとして、無歯顎者率が指標として使用されていた。しかし、この無歯顎者率を掲載していたのは 187 の国・地域中 36 の国・地域で、約 20% であった。12 歳児の DMFT のデータは 187 のすべての国・地域で記載されていたことを考えると、高齢者の歯科保健に関する調査を行っている国が少ないことが、あるいは調査を行っていても海外に向けた情報発信を行っていない国が多いことが明らかになった。

また、出典として文献や報告書ではなく、各国の歯科保健部長から直接得たデータであるとした国が 10 カ国あった。これも世界各国において、高齢者に関する疫学調査の結果が文書としてきちんとまとめられていないことを示唆している。もちろん、その国の言語で報告されている可能性は否定できないが、本研究により、現在のところ国際機関である WHO においても、高齢者に関する歯科保健情報は不足しており、今後 12 歳児の DMFT のように、国際基準として適切な指標で高齢者の歯科保健状況を比較していくことが必要であると考えられた。

WHO が無歯顎者率を国際比較する指標として用いたのは、おそらく 1981 年 9 月に FDI と共同で設定した歯科保健目標と関連があると思われる。表 1・3 に示すように西暦 2000 年までに世界各国が達成すべき目標として、6 項目の口腔保健目標が挙げられた。5~6 歳児ではう蝕のない状態を保つことに焦点が当てられ、12 歳児ではう蝕の減少および DT の MT あるいは FT への変化をみていくこととした。18 歳では永久歯列の保持に関心が寄せられ、さらに 35~44 歳、65 歳以上の年齢層では歯の喪失、特に無歯顎となることの防止と機能歯の維持を指標として、それぞれ目標が定められた。また、口腔保健の変化を監視するためにデータベースを確立するという目標も立てられた。

しかし、2000 年までに WHO の Global Data Bank に集められた各国からの口腔保健情報をみると、12 歳児の DMFT のデータは国別に詳細に報告されているが、その他の目標に関する情報は少ない。WHO は 2000 年までの口腔保健目標に続き、2010 年と 2025 年までに達成すべき目標を 1988 年に WHO と FDI のワークショップにおいて定めたが、その中には、高齢者に関する歯科保健目標はない。したがって、今後、WHO が中心となって高齢者に関する国際情報を収集する可能性は少ないとと思われる。

今回の調査結果を見ると、無歯顎者率が高かった 5 カ国の 12 歳児 DMFT はボスニアヘルツェゴビナ 6.1、ポルトガル 3.1、アルバニア 2.9、オランダ 0.65、カナダ 3.0~3.7 であり、オランダを除いては平均値より高い値であった（2001 年の推計による世界の 12 歳児の DMFT の平均値：1.74）。もちろん、現在の高齢者が 12 歳であった時代の歯科保健活動は、現在とは異なっているので、単純に比較するのは危険である。現在の 12 歳児の DMFT が高齢者の無歯顎者率に影響してくるのは数十年後であり、長期的にみた高齢者の歯科保健状況との関連を検討していかなければならない。

現在、どのような開発途上国においても、乳幼児や学童を対象とした歯科保健活動は国全体ではないにせよ何らかの形で実施されており、そのような活動は高齢者の歯科保健状

況にも影響を及ぼす。すなわち、その国の生涯を通した歯科保健への取り組みが、最終的に高齢者の歯科保健状況として評価されるといえよう。その国の歯科保健状態は、高齢者の歯科保健状態で代表されるといつても過言ではない。したがって、高齢者の歯科保健状況を国際比較できる基準を、海外の研究者と共同で定義し、長期的な追跡を可能とするためにも国際データバンクを構築していくことが不可欠である。

各国の人口構成や平均寿命は異なるため、高齢者の歯科保健への関心が低い国があることは事実である。だからこそ、世界一の長寿国であり、高齢者に関する歯科保健データが集積されているわが国が中心になって、世界各国の高齢者の歯科保健の状況を把握し、国際データバンクを構築していくことが求められている。この国際データバンクの構築にあたっては、各国が共通して同一基準でデータを蓄積していく必要がある。

WHO が基準としたのは無歯顎者率であったが、歯がすべて喪失した状況を示す指標を使用するより、例えば、残存歯数などの指標を用いた方が、健康状況をポジティブに捉える指標として望ましいと考えられる。子供のう蝕に関しても、近年はう蝕有病者率よりもカリエスフリーの指標が用いられている。その意味では、日本の「8020」は、生涯健康な歯を維持していくための指標として、各国の高齢者の歯科保健を比較する上で有用であると考えられる。また、高齢者といつても、国によって対象年齢が異なることも、今後考慮しなくてはならない課題である。高齢者の年齢については、国によって平均寿命が大きく異なるため、同一の年齢で調査するのは困難である。わが国では老年医学の対象として 65 歳は若すぎるという意見がある。しかし平均寿命が 50 歳未満の国では、65 歳という年齢はかなり高齢といえよう。このような国では 65 歳以上を対象とした調査は人口構成の面から考えても不可能に近い。調査対象年齢の設定には十分な配慮が必要である。たとえばその国の平均寿命よりも 10 歳若い年齢層で比較する、あるいは総人口のうち高齢者の上位 10~15% の集団の調査を行うなどが考えられる。

今後、高齢者の対象年齢、歯科保健状況を比較する指標、継続したデータの収集方法などについて、わが国から海外に向けて国際基準を提言していくよう、検討していくことが大切だと考察された。

表I-1 187の国・地域における12歳児のDMFTと高齢者の無歯顎者率の国際比較

| 国／地域 | 12歳児 | | 高齢者 | | |
|--------------------|-----------|---------|---------|---------------|--------------|
| | 調査年 | DMFT | 調査年 | 年齢 | 無歯顎者率(%) |
| 1 アフガニスタン | 1991 | 2.9 | | | |
| 2 アルバニア | 1996 | 2.9 | 1996 | 65 | 69.0 |
| 3 アルジェリア | 1987 | 2.3 | | | |
| 4 アンゴラ | 1981 | 1.7 | | | |
| 5 アンギラ | 1991 | 2.5 | | | |
| 6 アンティグアバーブーダ | 1988-89 | 0.7 | | | |
| 7 アルゼンチン | 1987 | 3.4 | | | |
| 8 アルメニア | 1985-1990 | 2.4 | | | |
| 9 オーストラリア | 1998 | 0.8 | | | |
| 10 オーストリア | 1997 | 1.7 | | | |
| 11 バハマ | 1981 | 1.6 | | | |
| 12 バーレーン | 1995 | 1.4 | | | |
| 13 バングラデッシュ | 2000 | 1.0 | | | |
| 14 バルバドス | 1983 | 4.4 | | | |
| 15 ベラルーシ | 1994 | 3.8 | 1995 | 65以上 | 14.8 |
| 16 ベルギー | 1998 | 1.6 | 1998 | 65 | 41.0 |
| 17 ベリーズ | 1989 | 6.0 | | | |
| 18 ベナン | 1994 | 0.7 | | | |
| 19 ブータン | 1985 | 1.4 | | | |
| 20 ボリビア | 1995 | 4.7 | | | |
| 21 ボスニアヘルツェゴビナ | 2001 | 6.1 | 1998 | 65 | 78.0 |
| 22 ボツワナ | 1981 | 0.5 | | | |
| 23 ブラジル | 1996 | 3.1 | | | |
| 24 ブルネイ | 1994 | 4.9 | | | |
| 25 ブルガリア | 1998 | 4.2 | 1998 | 65 | 53.0 |
| 26 ブルキナ ファソ | 1993 | 1.7 | | | |
| 27 ブルンディ | 1987-88 | 1.0 | | | |
| 28 カンボジア | 1990-91 | 1.6 | 1990-91 | 65-74 | 14.6 |
| 29 カメルーン | 1988 | 1.5 | | | |
| 30 カナダ | 1989-91 | 3.0-3.7 | 1993 | 55-64 65以上 | 37.0 58.0 |
| 31 カーボベルデ | 1989 | 2.8 | | | |
| 32 ケイマン諸島 | 1995 | 1.7 | | | |
| 33 中央アフリカ | 1986 | 4.1 | | | |
| 34 チリ | 1996 | 4.1 | | | |
| 35 中国 | 1995 | 1.03 | 1995-96 | 65-74 | 10.5 |
| 36 コロンビア | 1984 | 4.8 | | | |
| 37 コンゴサントメプリンシペ共和国 | 1987-91 | 0.4-1.1 | | | |
| 38 クック諸島 | 1995 | 1.3 | | | |
| 39 コスタリカ | 1996 | 4.8 | | | |
| 40 コートジボアール | 1996 | 1.8 | | | |
| 41 クロアチア | 1999 | 3.5 | | | |
| 42 キューバ | 1998 | 1.4 | | | |
| 43 サイプラス | 1992 | 2.1 | | | |
| 44 チェコ共和国 | 1998 | 3.4 | 1998 | 65以上 | 19.9 |
| 45 デンマーク | 2001 | 0.9 | 1998 | 65 | 46.0 |
| 46 ジブティ | 1990 | 0.9 | | | |
| 47 ドミニカ | 1989 | 2.5 | | | |
| 48 ドミニカ共和国 | 1997 | 4.4 | | | |
| 49 エクアドル | 1996 | 3.0 | | | |
| 50 エジプト | 1991 | 1.2 | 1991 | 65以上 | 17.3 |
| 51 エルサルバドル | 1989 | 5.1 | | | |
| 52 エストニア | 1998 | 2.7 | 1987 | 65-74 | 37.0 |

| | | | | | | |
|-----|-----------|-----------------------------|----------------------|--------------|-------------|--------------|
| 53 | エチオピア | 1993 | 1.0 | | | |
| 54 | 斐ジー | 1998 | 1.5 | | | |
| 55 | フィンランド | 1997 | 1.1 | 1998 | 65 | 41.0 |
| 56 | フランス | 1998 | 1.9 | 1995 | 65-74 | 16.3 |
| 57 | 仏領ポリネシア | 1994 | 3.2 | | | |
| 58 | ガボン | 2000 | 4.4 | | | |
| 59 | ガンビア | 1995 | 2.3 | | | |
| 60 | ジョージア | 1985/1990 | 2.4 | | | |
| 61 | ドイツ | 2000 | 1.2 | 1997 | 65-74 | 24.8 |
| 62 | ガーナ | 1991 | 0.1 | | | |
| 63 | ジブラルタル | 1991/1993 | 1.6 | | | |
| 64 | グレナダ | 1991 | 5.5 | | | |
| 65 | ガテマラ | 1987 | 8.1 | | | |
| 66 | ギニアビサオ共和国 | 1986 | 0.5 | | | |
| 67 | ガバナ | 1995 | 1.3 | | | |
| 68 | ハイチ | 1994 | 2.2 | | | |
| 69 | ホンジュラス | 1997 | 3.7 | | | |
| 70 | 香港 | 1986 | 1.5 | 1991 | 65以上 | 12.0 |
| 71 | ハンガリー | 1996 | 3.8 | 1998 1991 | 65 65-74 | 55.0 53.3 |
| 72 | アイスランド | 1996 | 1.5 | | | |
| 73 | インド | 1993 | 0.86 | | | |
| 74 | インドネシア | 1995 | 2.2 | 1995 | 65以上 | 23.6 |
| 75 | イラン | 1995 | 2.0 | | | |
| 76 | イラク | 1990 | 1.1 | | | |
| 77 | アイルランド | 1997 | 1.1 | 1989 | 65以上 | 48.3 |
| 78 | イスラエル | 1989 | 3 | | | |
| 79 | イタリア | 1996 | 2.1 | 1993 | 65-74 | 12.8 |
| 80 | ジャマイカ | 1995 | 1.1 | | | |
| 81 | 日本 | 1999 | 2.4 | | | |
| 82 | ヨルダン | 1995 | 3.3 | | | |
| 83 | カザフスタン | 1985-90 | 2.1-0.9 | | | |
| 84 | ケニア | 1986 | 1.8 | | | |
| 85 | キリバス | 1994 | 1.0 | | | |
| 86 | 北朝鮮 | 1991 | 3.0 | | | |
| 87 | 韓国 | 1995 | 3.1 | | | |
| 88 | クエート | 1993 | 2.6 | | | |
| 89 | キルギスタン | 1973 | 3.1 | 1987 | 65-74 | 46.0 |
| 90 | ラオス | 1991 | 2.0 | | | |
| 91 | ラトビア | 1998 | 4.2 | | | |
| 92 | レバノン | 1994 | 5.7 | 1994 | 65-74 | 35.0 |
| 93 | レソト | 1991 | 0.4 | | | |
| 94 | リベリア | 1977 | 0.4 | | | |
| 95 | リビア | 1989 1994 1994(rural) | 1.62 1.14 0.87 | | | |
| 96 | リヒテンシュタイン | 1988 | 3.4 | | | |
| 97 | リトアニア | 1994 | 3.8 | 1998 | 65 | 39.0 |
| 98 | ルクセンブルク | 1990 | 3.0 | | | |
| 99 | マカオ | 2001 | 2.7 | | | |
| 100 | マケドニア | 1999 | 3.03 | | | |
| 101 | マダガスカル | 1993 | 3.1 | | | |
| 102 | マラウィ | 1992-94 | 0.6-0.8 | | | |
| 103 | マレーシア | 1997 | 1.9 | 1990 | 65以上 | 56.6 |
| 104 | モルディブ | 1984 | 2.1 | | | |
| 105 | マリ | 1983 | 2.2 | | | |
| 106 | マルタ | 1986 | 1.6 | | | |

| | | | | | | |
|-----|---------------------|---------|---------|----------------------|------------------------|----------------------|
| 107 | マルティニーク | 1988 | 6.3 | | | |
| 108 | モーリタニア | 1990 | 2 | | | |
| 109 | モーリシャス | 1993 | 4.9 | | | |
| 110 | メキシコ | 1997 | 2.5 | | | |
| 111 | ミクロネシア連邦 | 1984 | 2.1 | | | |
| 112 | モルドバ | 1984 | 2.1 | | | |
| 113 | モナコ | 1992 | 2.3 | | | |
| 114 | モンゴル | 1997 | 1.9 | | | |
| 115 | モロッコ | 1999 | 2.5 | | | |
| 116 | モザンビーク | 1983 | 0.6-5.5 | | | |
| 117 | ミャンマー | 1993 | 1.1 | | | |
| 118 | ナミビア | 1996-97 | 1.2 | | | |
| 119 | ネパール | 1994 | 1.2 | | | |
| 120 | オランダ | 1998 | 0.65 | 1998 | 65 | 61.0 |
| 121 | ニューカレドニア | 1991 | 4.4 | | | |
| 122 | ニュージーランド | 1993 | 1.5 | | | |
| 123 | ニカラグア | 1997 | 2.8 | | | |
| 124 | ニジェール | 1997 | 1.3 | | | |
| 125 | ナイジェリア | 1990-91 | 0.7 | | | |
| 126 | ニウエ | 1995 | 1.8 | | | |
| 127 | ノルウェー | 1998 | 1.5 | 1998 | 65 | 40.0 |
| 128 | オマーン | 1993 | 1.5 | | | |
| 129 | パキスタン | 1999 | 0.9 | | | |
| 130 | パナマ | 1997 | 3.6 | 1993 | 65以上 | 18.9 |
| 131 | パパニューギニア | 1995 | 1.76 | | | |
| 132 | パラグアイ | 1983 | 5.9 | | | |
| 133 | ペルー | 1990 | 7.0 | | | |
| 134 | フィリピン | 1998 | 4.6 | | | |
| 135 | ポーランド | 1998 | 4.0 | 1991 | 65-74 | 35.5 |
| 136 | ポルトガル | 1999 | 3.1 | 1998 | 65 | 72.0 |
| 137 | レユニオン | 1981 | 4.1 | | | |
| 138 | ルーマニア | 1998 | 7.3 | | | |
| 139 | ロシア | 1985-95 | 3.7 | | | |
| 140 | ルアンド | 1993 | 0.3 | | | |
| 141 | セントクリストファー・ネイビス | 1979-83 | 5.5 | | | |
| 142 | セントルシア | 1961 | 2.7 | | | |
| 143 | セントビンセント及びグレナディーン諸島 | 1991 | 3.2 | | | |
| 144 | サンマリノ | 1987 | 3.7 | | | |
| 145 | サウジアラビア | 1995 | 1.7 | 1992 | 65以上 | 31.0-46.0 |
| 146 | セネガル | 1994 | 1.2 | | | |
| 147 | セルビア | 1994 | 2.9-7.8 | | | |
| 148 | シェラレオーネ | 1986 | 1.3 | | | |
| 149 | シンガポール | 1995 | 1.0 | 1995 1996 1996 | 65以上 65-69 70-74 | 33.1 14.5 20.8 |
| 150 | スロバキア | 1998 | 4.3 | | | |
| 151 | スロバニア | 1998 | 1.8 | 1998 | 65以上 | 16.0 |
| 152 | ソロモン諸島 | 1994 | 2.7 | | | |
| 153 | ソマリア | 1992 | 1.0 | | | |
| 154 | 南アフリカ | 1988-89 | 1.7 | | | |
| 155 | スペイン | 1994 | 2.3 | | | |
| 156 | スリランカ | 1994-95 | 1.4 | | | |
| 157 | スーダン | 1990 | 1.4 | | | |
| 158 | スリナム | 1992 | 2.7 | | | |
| 159 | スワジランド | 1989 | 0.9 | | | |
| 160 | スウェーデン | 2001 | 0.9 | 1996-97 | 65-74 75-84 | 15.7 31.5 |

| | | | | | | |
|-----|-----------|---------|------|---------|---------------|--------------|
| 161 | スイス | 1996 | 0.85 | | | |
| 162 | シリア | 1998 | 2.3 | | | |
| 163 | タジキスタン | 1985-90 | 1.2 | | | |
| 164 | タンザニア共和国 | 1994 | 0.3 | | | |
| 165 | タイ | 2000-01 | 1.6 | | | |
| 166 | トーゴー | 1986 | 0.3 | | | |
| 167 | トケラウ | 1999 | 4.88 | | | |
| 168 | トンガ | 1998 | 3.1 | | | |
| 169 | トリニダッドトバコ | 1989 | 4.9 | | | |
| 170 | チュニジア | 1994 | 1.3 | | | |
| 171 | トルコ | 1988 | 2.7 | | | |
| 172 | トルクメニスタン | 1985-90 | 2.6 | | | |
| 173 | ツバル | 1994 | 2.0 | | | |
| 174 | ウガンダ | 1993 | 0.4 | | | |
| 175 | ウクライナ | 1992 | 4.4 | | | |
| 176 | アラブ首長国連邦 | 1995 | 1.6 | | | |
| 177 | イギリス | 2000-01 | 0.99 | 1998 | 65以上 | 46.0 |
| 178 | アメリカ | 1992-94 | 1.28 | 1988-91 | 70-74 75以上 | 31.1 43.9 |
| 179 | ウルグアイ | 1999 | 2.5 | | | |
| 180 | ウズベキスタン | 1996 | 1.4 | 1996 | 65以上 | 22.2 |
| 181 | バヌアツ | 1994 | 1.2 | | | |
| 182 | ベネズエラ | 1997 | 2.1 | | | |
| 183 | ベトナム | 1990 | 1.8 | | | |
| 184 | 西サモア | 1994 | 2.5 | | | |
| 185 | イエメン | 1987 | 3.1 | | | |
| 186 | ザンビア | 1982 | 2.3 | | | |
| 187 | ジンバブエ | 1991 | 1.3 | | | |

表I-2 36の国・地域における高齢者の無歯顎者率とその出典(情報ソース)

| 国／地域 | 12歳児 年 | DMFT 年 | 年齢 | 年齢 無歯顎者率(%) | 高齢者 出典 |
|---------------|-----------|-----------|---------|----------------|--|
| 1 アルバニア | 1996 | 2.9 | 1996 | 65 69.0 | Chief Dental Officer |
| 2 ベラルーシ | 1994 | 3.8 | 1995 | 65以上 14.8 | WHO CC Minsk unpublished |
| 3 ベルギー | 1998 | 1.6 | 1998 | 65 41.0 | Chief Dental Officer |
| 4 ボスニアヘルツェゴビナ | 2001 | 6.1 | 1998 | 65 78.0 | Chief Dental Officer |
| 5 ブルガリア | 1998 | 4.2 | 1998 | 65 53.0 | Chief Dental Officer |
| 6 カンボジア | 1990-91 | 1.6 | 1990-91 | 65-74 14.6 | Durward C. et al. Cambodian National Oral Health Survey 1990-1991. WHO, Geneva. |
| 7 カナダ | 1989-91 | 3.0-3.7 | 1993 | 65以上 58.0 | Broeck J.M., faculty of Medicine, University of Montreal. Personal Communications. 1999. |
| 8 中国 | 1995 | 1.03 | 1995-96 | 65-74 10.5 | 2 nd national survey |
| 9 チェコ共和国 | 1998 | 3.4 | 1998 | 65以上 19.9 | Chief Dental Officer |
| 10 デンマーク | 2001 | 0.9 | 1998 | 65 46.0 | Krstrup U. & Petersen PE. Oral health status of adults in Denmark. Community Dent Health. 2002; 19: 202 |
| 11 エジプト | 1991 | 1.2 | 1991 | 65以上 17.3 | The national survey forepidemiological evalution of oral and dental disease among Egyptian population. The Ministry of Health,Dental Sector. 1991 |
| 12 エストニア | 1998 | 2.7 | 1987 | 65-74 37.0 | Bourgeois D. et al. Prevalence of caries and edentulousness among 65-74-year-olds in Europe. Bull. World Health Organ. 1998; 76: 413-417. |
| 13 フィンランド | 1997 | 1.1 | 1998 | 65 41.0 | Chief Dental Officer. |
| 14 フランス | 1998 | 1.9 | 1995 | 65-74 16.3 | Bourgeois D. et al. Prevalence of caries and edentulousness among 65-74-year-olds in Europe. Bull. World Health Organ. 1998; 76: 413-417. |
| 15 ドイツ | 2000 | 1.2 | 1997 | 65-74 24.8 | Michelis W & Reich E. The Third German Oral Health Study (DMS III). Institute of German Dentists (IDZ). Deutschen Ärzte - Verlag, Köln. 1999 |
| 16 香港 | 1986 | 1.5 | 1991 | 65以上 12.0 | Lo E.C.M., Schwarz E. Tooth and root conditions in the middle-aged and the elderly in Hong Kong. Community Dent. Oral Epidemiol 1994; 22: 381-385. |
| 17 ハンガリー | 1996 | 3.8 | 1991 | 65-74 53.3 | Bourgeois D. et al. Prevalence of caries and edentulousness among 65-74-year-olds in Europe. Bull. World Health Organ. 1998; 76: 413-417. |
| 18 インドネシア | 1995 | 2.2 | 1995 | 65以上 23.6 | National Institute for Health Research & Development MOH. Statistic of Dental Health in Indonesia. National Household Health Survey 1995. 1998; page 23. |
| 19 アイルランド | 1997 | 1.1 | 1989 | 65以上 48.3 | O'Mullane D. & Whelton H. Caries prevalence in the Republic of Ireland |
| 20 イタリア | 1996 | 2.1 | 1993 | 65-74 12.8 | Bourgeois D. et al. Prevalence of caries and edentulousness among 65-74-year-olds in Europe. |
| 21 キルギスタン | 1973 | 3.1 | 1987 | 65-74 46.0 | Bourgeois D. et al. Prevalence of caries and edentulousness among 65-74-year-olds in Europe. Bull. World Health Organ. 1998; 76: 413-417. |
| 22 レバノン | 1994 | 5.7 | 1994 | 65-74 35.0 | Doughan B. & Doumit M. Oral Health in Lebanon - A situation Analysis. 1994. |
| 23 リトニア | 1994 | 3.8 | 1998 | 65 39.0 | Chief Dental Officer |
| 24 マレーシア | 1997 | 1.9 | 1990 | 65以上 56.6 | Oral Health Division. Ministry of Health, Malaysia. |
| 25 オランダ | 1998 | 0.65 | 1998 | 65 61.0 | Chief Dental Officer |
| 26 ノルウェー | 1998 | 1.5 | 1998 | 65 40.0 | Chief Dental Officer |
| 27 パナマ | 1997 | 3.6 | 1993 | 65以上 18.9 | Astroth J., et al. Dental caries prevalence and treatment need in Chiriquí Province, Panama. |
| 28 ポーランド | 1998 | 4.0 | 1991 | 65-74 35.5 | Bourgeois D. et al. Prevalence of caries and edentulousness among 65-74-year-olds in Europe. |
| 29 ポルトガル | 1999 | 3.1 | 1998 | 65 72.0 | Chief Dental Officer. |
| 30 サウジアラビア | 1995 | 1.7 | 1992 | 65以上 31.0-46.0 | WHO/ORH/J2/767/1992/Khalid Almas |
| 31 シンガポール | 1995 | 1.0 | 1996 | 65-69 33.1 | Loh T. et al. Tooth loss and coronal caries of elderly residents in Singapore. Community Dent Oral Epidemiol. 1996; 24: 300-301. |
| 32 スロバキア | 1998 | 1.8 | 1998 | 65以上 14.5 | Ministry of Health 1998, Yee-wing Chan. |
| 33 スウェーデン | 2001 | 0.9 | 1996-97 | 65-74 20.8 | Ministry of Health 1998, Yee-wing Chan. |
| 34 イギリス | 2000-01 | 0.99 | 1998 | 65以上 16.0 | Vrbic V : Caries decline in Slovenia. Ljubljana. 1998: 1-48 |
| 35 アメリカ | 1992-94 | 1.28 | 1988-91 | 70-74 31.1 | Adult Dental Health Survey. Oral Health in the United Kingdom 1998. Office for National Statistics, UK. |
| 36 ウズベキスタン | 1996 | 1.4 | 1996 | 65以上 43.9 | Marcus SE et al J Dent Res 1996; 75(spec Iss); 684-695. |
| | | | | 22.2 | Leous P. Oral Health Situation Analysis-Uzbekistan. |

表 I-3 歯科保健の国際目標(WHO／FDI)

西暦 2000 年までの口腔保健目標

1. 5～6 歳児の 50%をカリエスフリーにする。
2. 12 歳児の DMFT を 3 歯以下にする。
3. 18 歳の 85%が永久歯をすべて保有するようとする。
4. 35～44 歳の無歯顎者の割合を現在のレベルより 50%減少させる。35～44 歳の 75%が 20 歯の機能歯を保有するようとする。
5. 65 歳以上の無歯顎者の割合を現在のレベルより 25%減少させる。65 歳以上の 50%が 20 歯の機能歯を保有するようとする。
6. 口腔保健の変化を監視するためのデータベースを確立する。

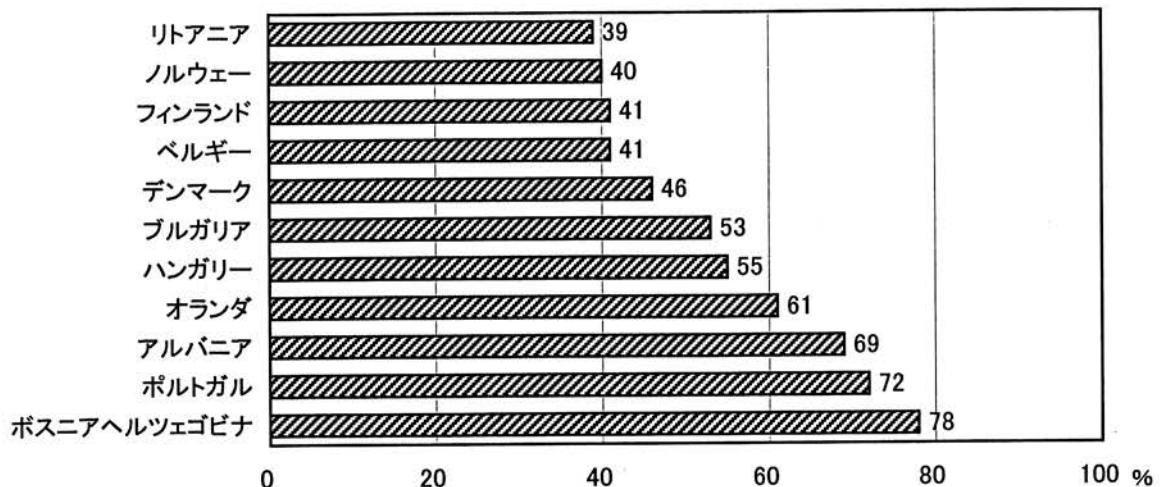
西暦 2010 年までの口腔保健目標

1. 5 歳児の 90%をカリエスフリーにする。
2. 12 歳児の DMFT を 2 歯以下にする。
3. 20 歳の 75%はう蝕を非活動性状態（停止状態）とする。
4. 20 歳の 75%は重症の歯周病に罹患していない。
5. 小児と青少年の 75%以上が、自己診断やセルフケアを行うための口腔疾患の原因や予防に関する十分な知識を習得する。
6. 世界の口腔保健情報を完全に電子化し、国別の、また、全身の健康に関連した WHO の口腔保健データベースを確立する。

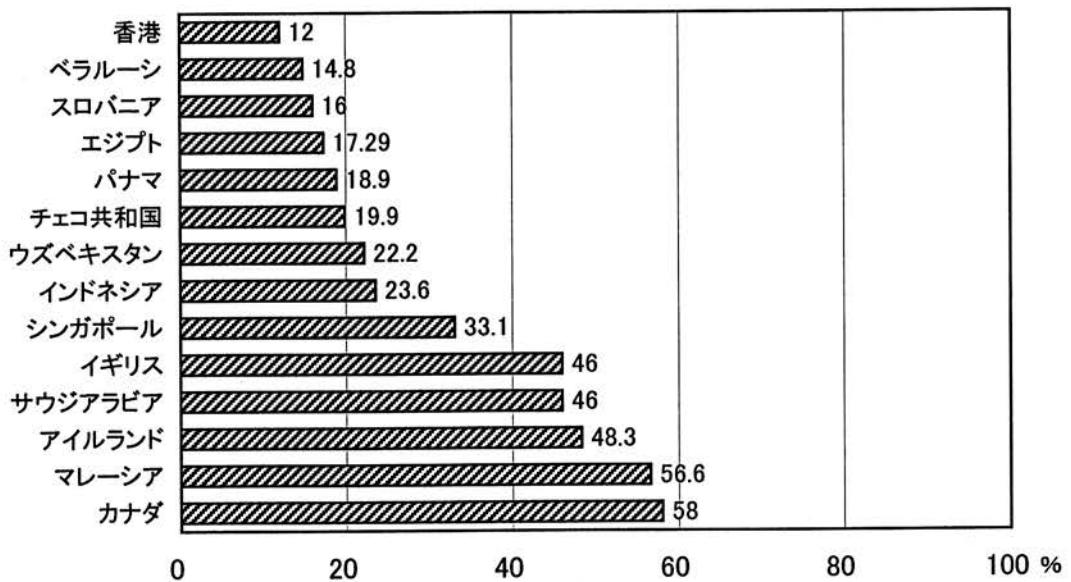
西暦 2025 年までの口腔保健目標

1. 5 歳児の 90%をカリエスフリーにする。
2. 12 歳児の DMFT を 1 歯以下にする。
3. 20 歳の 90%はう蝕を非活動性状態（停止状態）とする。
4. 全人口の 90%は重症の歯周病に罹患していない。
5. 全人口の 75%以上が、自己診断やセルフケアを行うための口腔疾患の原因や予防に関する十分な知識を習得する。
6. 医療経済分析が可能となる口腔および全身の健康問題を自動的に評価するための電子化した国際データベースを確立する。

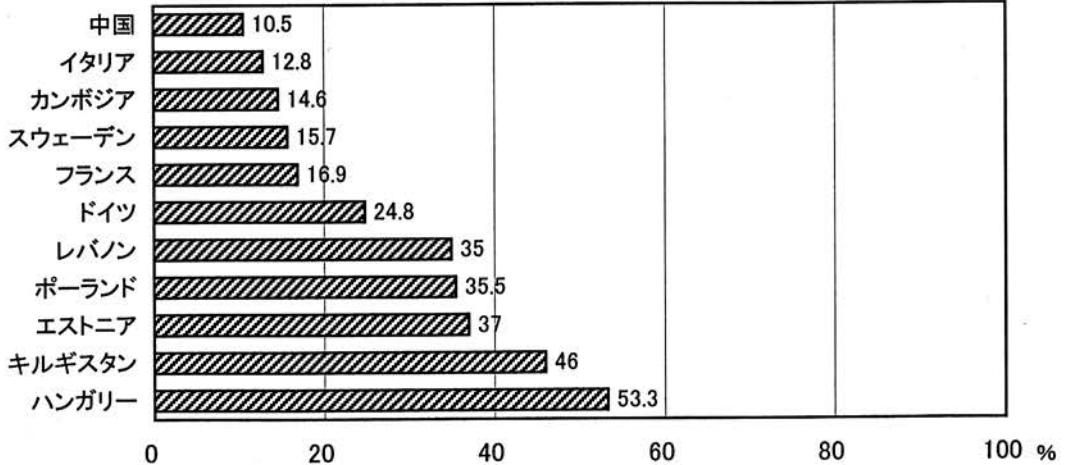
図I-1 無歯顎者率の国際比較(65歳)



図I-2 無歯顎者率の国際比較(65歳以上)



図I-3 無歯顎者率の国際比較(65-74歳)



II. 5カ国の歯科疾患実態調査からみた高齢者の歯科保健状況

方法

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科で学んでいる留学生（歯科医師）を介して、海外においてこれまでに発行された歯科疾患実態調査入手した。得られた資料を以下に示す。

- ① 韓国保健福祉部：国民口腔健康実態調査 2000—口腔保健口腔保健意識調査、ソウル、2001.
- ② 全国牙病防治指導組：第二次全国口腔保健流行病学抽樣調査、人民衛生出版社、北京、1998.
- ③ Dental Health Division, Ministry of Health: The 4th National Oral Health Survey, Thailand 1994, Bangkok, 1996
- ④ Ministry of Health: The National Oral Health Survey 1994/95, Anura C Printers, Colombo, Sri Lanka, 1997.
- ⑤ Dept. of Health & Human Services, NIH: Oral Health of United States Adults National Findings –The National Survey of Oral Health in U.S. Employed Adults & Seniors 1985-1986, NIH Publication, 1987.

これらの歯科疾患実態調査報告書は、アメリカ（1985-1986年）、中国（1995-1996年）、韓国（2000年）、タイ（1994年）、スリランカ（1994-1995年）で実施され、その結果が1冊の本にまとめられた国レベルでの歯科疾患に関する報告書である。

英語以外の言語で記載されているもの、例えば、中国語、ハングル、タイ語で書かれてる報告書については、中国、韓国、タイの留学生に翻訳作業を依頼した。その際、留学生が直接日本語に翻訳することが不可能なため、現地語→英語→日本語と、2回の翻訳作業を行った。アメリカとスリランカの報告書は、英語で記載されていた。

各国で調査年は異なっていたが、対象となる高齢者の年齢階級及び実施している調査内容について検討を行った。

結果

それぞれの報告書に記載されていた高齢者の歯科保健状況の概要を以下にまとめた。

1. アメリカでは 1985-1986 年に調査が実施された。勤労者と退職者に分けて調査され、高齢者の歯科保健状況は退職者のデータを基本としている。年齢および人数は 65-69 歳 : 1,567 名、70-74 歳 : 1,643 名、75-79 歳 : 1,324 名、80-85 歳 : 751 名、85 歳以上 : 364 名であった。有歯顎者ののみの一人平均現在歯数は 65-69 歳 : 18.1 歯、70-74 歳 : 17.7 歯、75-79 歳 : 16.8 歯、80 歳以上 : 15.1 歯、DFT は 65-69 歳 : 8.3 歯、70-74 歳 : 7.7 歯、75-79 歳 : 7.2 歯、80 歳以上 : 6.3 歯であった。すべての対象者の 20 歯以上保有者率は、27.2% (男性 26.3%、女性 27.6%) であった。無歯顎者率は、65-69 歳 : 32.1%、

- 70-74 歳 : 41.5%、75-79 歳 : 45.0%、80 歳以上 : 49.3% であった（資料 II-1）。
2. 中国では 1995-96 年に調査が実施された。年齢および人数は 65-74 歳 : 23,452 名（男性 11,805 名、女性 11,647 名）であった。一人平均現在歯数は全体で 18.1 歯、有歯頸者のみで 20.3 歯、DFT 者率は 64.8%（男性 61.8%、女性 67.7%）、DFT は 2.5 歯であった。20 歯以上保有者率は 57.7%（男性 60.0%、女性 55.4%）で、都市部(60.8%)のほうが地方 (51.5%) よりも高かった。無歯頸者率は 10.5%（男性 9.2%、女性 11.9%）であり、地域別にみると都市部 9.7%、地方 12.2% であった。また、根面う蝕所有者率は 17.9%（都市部 19.2%、地方 15.3%）であった（資料 II-2）。
 3. 韓国では 2000 年に調査が実施された。年齢および人数は 65-74 歳 : 1134 名（男性 449 名、女性 685 名）、75 歳以上 : 521 名（男性 170 名、女性 351 名）であった。一人平均現在歯数は 65-74 歳 : 16.3 歯（男性 17.1 歯、女性 15.7 歯）、75 歳以上 : 10.4 歯（男性 12.4 歯、女性 9.5 歯）であった。DMFT 者率は 65-74 歳 : 96.4%、75 歳以上 : 95.7% であった。DMFT は 65-74 歳 : 11.9 歯、75 歳以上 : 14.9 歯 であった（資料 II-3）。
 4. タイでは、1994 年に調査が実施された。年齢および人数は 60-74 歳 : 1,101 名（男性 546 名、女性 555 名）であった。一人平均現在歯数は全国平均 18.1 歯、都市部 16.3 歯、地方 19.4 歯、首都(バンコク)14.5 歯、DMFT 者率は全国平均 95.0%、都市部 98.2%、地方 93.1%、首都 97.5%、DMFT は、全国平均 15.8 歯、都市部 17.6 歯、地方 14.4 歯、首都 20.4 歯 であった。20 歯以上保有者率(機能歯)は 47.2% であった。無歯頸者率は全国平均 16.3%、都市部 16.7%、地方 15.7%、首都 18.8% であった。また、根面う蝕所有者率は全国平均 27.0%、都市部 28.2%、地方 24.4%、首都 43.8% であった（資料 II-4）。
 5. スリランカでは 1994-95 年に調査が実施された。年齢および人数は 65-74 歳 : 1894 名（男性 902 名、女性 992 名）であった。一人平均現在歯数は 11.5 歯（男性 12.7 歯、女性 10.5 歯）、DFT 者率は 64.5%（男性 62.2%、女性 66.5%）、DMFT は 22.5 歯（男性 21.0 歯、女性 23.8 歯）であった。無歯頸者率は、36.9%（男性 33.3%、女性 40.3%）であった（資料 II-5）。

考察

5 カ国の歯科疾患実態調査の内容を翻訳して、報告書に記載されている高齢者の年齢や歯科保健に関する指標について検討を行った。その結果、65~74 歳を対象としたものが多く、国により高齢者の対象年齢は異なっていた。これは各国の平均寿命（韓国：男性 70.6 歳、女性 78.1 歳、中国：男性 66.7 歳、女性 70.5 歳、タイ：男性 65.8 歳、女性 72.0 歳、スリランカ：男性 69.6 歳、女性 74.7 歳、米国：男性 73.8 歳、女性 79.5 歳）が異なるためと考えられた。日本は世界一の平均寿命（男性 77.6 歳・女性 84.6 歳）を誇っているが、国際比較を行う場合、同じ年齢の高齢者を比較することが妥当であるか、検討していくかなければならないと考えられた。

また、無歯頸者と有歯頸者とに分けて現在歯数を報告しているものがあるので、国際比較を行う場合には注意が必要である。日本では「8020 運動」を推進しており、20 歯以上の歯

の保有を高齢者の歯科保健に関する一つの指標としているが、1981年にWHO/FDIが「65歳以上の50%が20歯の機能歯を保有するようとする」という数値目標を出したこともあり、海外においても20歯以上の保有者率を報告している国もみられた。

今回調査した5カ国の歯科疾患実態調査に受診率が記載されているものはなかった。また、対象者の自宅を訪問して歯科健診を行うなど調査方法もさまざまであった。全く同じ指標、同じ基準を用いて、高齢者の歯科保健状況の国際比較を行うことは困難であると思われたが、日本において適切な指標と統一した基準を検討し、高齢者の歯科保健に関する情報を発信していくことが重要であると考えられた。

資料 II-1 アメリカの歯科疾患実態調査の概要

対象者数

| 年齢 | 男性 | 女性 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|
| 65-69 | 501 | 1,066 | 1,567 |
| 70-74 | 543 | 1,100 | 1,643 |
| 75-79 | 432 | 892 | 1,324 |
| 80以上 | 423 | 692 | 1,115 |
| 計 | 1,899 | 3,750 | 5,649 |

無歯顎者率

| 年齢 | 男性 | 女性 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|
| 65-69 | 31.82 | 32.18 | 32.05 |
| 70-74 | 37.04 | 43.95 | 41.52 |
| 75-79 | 52.55 | 40.66 | 45.04 |
| 80以上 | 51.26 | 48.49 | 49.29 |
| 計 | 41.60 | 40.90 | 41.11 |

現在歯数別の割合

| 歯数 | 男性 | 女性 | 計 |
|----|-------|-------|-------|
| 0 | 41.60 | 40.90 | 41.14 |
| 1 | 0.44 | 0.05 | 0.18 |
| 2 | 0.50 | 0.72 | 0.64 |
| 3 | 0.71 | 0.69 | 0.70 |
| 4 | 1.34 | 0.80 | 0.98 |
| 5 | 1.58 | 1.49 | 1.52 |
| 6 | 1.91 | 2.49 | 2.29 |
| 7 | 1.92 | 2.22 | 2.12 |
| 8 | 1.65 | 2.32 | 2.10 |
| 9 | 2.41 | 2.12 | 2.22 |
| 10 | 1.91 | 1.24 | 1.47 |
| 11 | 1.91 | 1.51 | 1.65 |
| 12 | 1.60 | 1.15 | 1.30 |
| 13 | 1.52 | 1.12 | 1.26 |
| 14 | 1.31 | 1.60 | 1.50 |
| 15 | 2.26 | 1.75 | 1.93 |
| 16 | 2.13 | 2.20 | 2.17 |
| 17 | 2.48 | 2.04 | 2.19 |
| 18 | 2.22 | 2.35 | 2.31 |
| 19 | 2.33 | 3.58 | 3.15 |
| 20 | 3.23 | 3.18 | 3.20 |
| 21 | 2.89 | 3.24 | 3.13 |
| 22 | 2.45 | 3.29 | 3.00 |
| 23 | 4.43 | 2.99 | 3.48 |
| 24 | 3.00 | 3.69 | 3.45 |
| 25 | 3.18 | 3.16 | 3.17 |
| 26 | 3.56 | 2.97 | 3.17 |
| 27 | 1.78 | 2.81 | 2.46 |
| 28 | 1.73 | 2.31 | 2.12 |

一人平均現在歯数 (有歯顎者のみの数値)

| 年齢 | 男性 | 女性 | 計 |
|-------|------|------|------|
| 65-69 | 18.0 | 18.2 | 18.1 |
| 70-74 | 16.5 | 18.5 | 17.7 |
| 75-79 | 16.9 | 16.8 | 16.8 |
| 80以上 | 15.7 | 14.9 | 15.1 |
| 計 | 17.0 | 17.4 | 17.2 |

DFT とその構成要素 (有歯顎者のみの数値)

| 合計 | | | | |
|-------|-------|-------|----------|----------|
| 年齢 | 平均DFT | 標準偏差 | D/DFT(%) | F/DFT(%) |
| 65-69 | 8.279 | 5.769 | 7.52 | 92.48 |
| 70-74 | 7.730 | 5.463 | 9.06 | 90.94 |
| 75-79 | 7.184 | 5.359 | 8.34 | 91.66 |
| 80以上 | 6.334 | 4.696 | 12.37 | 87.63 |
| 計 | 7.565 | 5.467 | 8.83 | 91.97 |
| 男性 | | | | |
| 65-69 | 7.754 | 5.645 | 10.14 | 89.86 |
| 70-74 | 7.012 | 5.135 | 15.00 | 85.00 |
| 75-79 | 6.366 | 4.945 | 13.80 | 86.20 |
| 80以上 | 6.008 | 4.461 | 18.31 | 81.69 |
| 計 | 6.993 | 5.227 | 13.14 | 86.59 |
| 女性 | | | | |
| 65-69 | 8.554 | 5.814 | 6.28 | 93.72 |
| 70-74 | 8.168 | 5.609 | 5.94 | 94.06 |
| 75-79 | 7.567 | 5.550 | 6.20 | 93.80 |
| 80以上 | 6.459 | 4.777 | 10.25 | 89.75 |
| 計 | 7.857 | 5.564 | 6.74 | 93.26 |

資料 II-2 中国の歯科疾患実態調査の概要

対象者数

| | 都市 | 郊外 | 計 |
|---|-------|------|-------|
| 男 | 7871 | 3934 | 11805 |
| 女 | 7749 | 3898 | 11647 |
| 計 | 15620 | 7832 | 23452 |

う蝕有病状況

| | | DT | FT | DFT | DT者率 (%) | FT者率 (%) | DFT者率 (%) | 根面う蝕罹患率(%) | | |
|----|---|------|------|------|-------------|-------------|--------------|------------|------|-------|
| | | | | | | | | DT | FT | DFT |
| 都市 | | 1.90 | 0.46 | 2.37 | 57.20 | 21.47 | 65.02 | 17.9 | 1.82 | 19.21 |
| 郊外 | | 2.7 | 0.07 | 2.74 | 62.78 | 4.24 | 64.20 | 15.2 | 0.18 | 15.33 |
| 都市 | 男 | 1.7 | 0.46 | 2.12 | 53.82 | 21.28 | 61.91 | 17.4 | 2.25 | 18.99 |
| | 女 | 2.2 | 0.47 | 2.62 | 60.64 | 21.67 | 68.18 | 18.5 | 1.39 | 19.43 |
| 郊外 | 男 | 2.5 | 0.07 | 2.54 | 60.22 | 4.07 | 61.57 | 15.1 | 0.23 | 15.30 |
| | 女 | 2.9 | 0.08 | 2.95 | 65.37 | 4.41 | 66.85 | 15.3 | 0.13 | 15.37 |
| 男 | | 1.9 | 0.33 | 2.26 | 55.95 | 15.54 | 61.80 | 16.65 | 1.58 | 17.76 |
| 女 | | 2.4 | 0.34 | 2.73 | 62.22 | 15.89 | 67.73 | 17.40 | 0.97 | 18.07 |
| 計 | | 2.2 | 0.33 | 2.49 | 59.07 | 15.72 | 64.75 | 17.03 | 1.27 | 17.92 |

喪失歯と現在歯数

| | | 喪失歯(%) | | | | 保持者率(%) | | 無歯顎者 (%) | 現在歯数 (無歯顎者含む) | 現在歯数 (無歯顎者なし) |
|----|---|--------|------|-------|--------|---------|-------|-------------|------------------|------------------|
| | | 1歯 | 2歯 | 3歯以上 | 喪失歯保持者 | 28歯以上 | 20歯以上 | | | |
| 都市 | | 10.30 | 7.10 | 33.28 | 50.68 | 12.47 | 60.77 | 9.67 | 18.80 | 20.81 |
| 郊外 | | 9.07 | 7.02 | 41.25 | 57.34 | 9.78 | 51.52 | 12.19 | 16.82 | 19.15 |
| 都市 | 男 | 10.75 | 6.63 | 33.32 | 50.70 | 13.39 | 62.89 | 8.40 | 19.19 | 20.94 |
| | 女 | 9.85 | 7.58 | 33.23 | 50.66 | 11.55 | 58.66 | 10.96 | 18.41 | 20.67 |
| 郊外 | 男 | 9.25 | 6.81 | 40.04 | 56.10 | 11.08 | 54.09 | 10.73 | 17.38 | 19.47 |
| | 女 | 8.88 | 7.23 | 42.48 | 58.59 | 8.48 | 48.95 | 13.67 | 16.25 | 18.82 |
| 男 | | 10.25 | 6.69 | 35.56 | 52.50 | 12.62 | 59.95 | 9.17 | 18.59 | 20.46 |
| 女 | | 9.52 | 7.46 | 36.33 | 53.31 | 10.52 | 55.42 | 11.87 | 17.68 | 20.06 |
| 計 | | 9.89 | 7.07 | 35.94 | 52.90 | 11.57 | 57.68 | 10.51 | 18.14 | 20.27 |

歯周疾患の有病状況

| | | CPI(%) | | | | | (%) | | | |
|----|---|--------|------|-------|-------|------|-------|-------|--------|--------|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 歯肉出血 | 歯石 | 浅いポケット | 深いポケット |
| 都市 | | 6.27 | 1.41 | 62.77 | 15.92 | 3.96 | 15.74 | 79.4 | 18.46 | 3.96 |
| 郊外 | | 2.46 | 1.26 | 81.55 | 12.42 | 2.18 | 10.29 | 73.58 | 18.37 | 3.52 |
| 都市 | 男 | 6.31 | 1.11 | 62.52 | 17.15 | 4.51 | 14.99 | 80.45 | 20.09 | 4.51 |
| | 女 | 6.23 | 1.73 | 63.01 | 14.67 | 3.39 | 16.49 | 78.33 | 16.82 | 3.39 |
| 郊外 | 男 | 1.84 | 0.92 | 80.49 | 14.15 | 2.60 | 10.04 | 75.29 | 19.83 | 4.17 |
| | 女 | 3.09 | 1.61 | 82.61 | 10.70 | 1.76 | 10.54 | 71.86 | 16.91 | 2.87 |
| 男 | | 7.95 | 1.14 | 61.02 | 18.89 | 4.84 | 13.34 | 78.73 | 20.00 | 4.40 |
| 女 | | 8.54 | 1.70 | 61.09 | 16.79 | 3.65 | 14.5 | 76.17 | 16.85 | 3.22 |
| 計 | | 8.24 | 1.42 | 61.06 | 17.86 | 4.26 | 13.92 | 77.46 | 18.43 | 3.81 |

資料 II-3 韓国の歯科疾患実態調査の概要

対象者数

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|--------|-----|-----|------|
| 55-64歳 | 671 | 865 | 1536 |
| 65-74歳 | 449 | 685 | 1134 |
| 75歳以上 | 170 | 351 | 521 |

う蝕有病率 (%)

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|
| 55-64歳 | 89.36 | 96.07 | 92.88 |
| 65-74歳 | 94.65 | 97.58 | 96.40 |
| 75歳以上 | 97.26 | 95.03 | 95.74 |

DMF 歯数

| | 男性 | | | | 女性 | | | | 合計 | | | |
|--------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| | D | M | F | DMF | D | M | F | DMF | D | M | F | DMF |
| 65-74歳 | 1.19 | 8.36 | 1.36 | 10.91 | 1.00 | 9.98 | 1.64 | 12.62 | 1.08 | 9.33 | 1.53 | 11.94 |
| 75歳以上 | 1.81 | 11.33 | 1.20 | 14.34 | 1.38 | 13.01 | 0.79 | 15.18 | 1.52 | 12.47 | 0.92 | 14.91 |

永久歯の治療必要性 (%)

| 男性 | 人数 | 1歯面修復 | 2歯面以上修復 | 単冠修復 | 歯髓処置と修復 | 抜歯 | その他 |
|--------|-----|-------|---------|------|---------|-------|------|
| 55-64歳 | 671 | 18.19 | 15.91 | 4.04 | 8.28 | 20.13 | 2.53 |
| 65-74歳 | 449 | 12.58 | 13.67 | 5.77 | 6.76 | 22.60 | 1.26 |
| 75歳以上 | 170 | 8.30 | 15.76 | 4.06 | 11.52 | 35.77 | 0.37 |

| 女性 | 人数 | 1歯面修復 | 2歯面以上修復 | 単冠修復 | 歯髓処置と修復 | 抜歯 | その他 |
|--------|-----|-------|---------|------|---------|-------|------|
| 55-64歳 | 865 | 15.76 | 16.04 | 2.52 | 5.64 | 16.42 | 1.33 |
| 65-74歳 | 685 | 10.51 | 12.63 | 3.45 | 7.19 | 22.09 | 0.59 |
| 75歳以上 | 351 | 8.52 | 14.88 | 3.95 | 6.14 | 26.16 | 1.85 |

| 合計 | 人数 | 1歯面修復 | 2歯面以上修復 | 単冠修復 | 歯髓処置と修復 | 抜歯 | その他 |
|--------|------|-------|---------|------|---------|-------|------|
| 55-64歳 | 1536 | 16.91 | 15.98 | 3.24 | 6.89 | 18.18 | 1.90 |
| 65-74歳 | 1134 | 11.35 | 13.05 | 4.38 | 7.01 | 22.30 | 0.86 |
| 75歳以上 | 521 | 8.45 | 15.16 | 3.99 | 7.87 | 29.24 | 1.37 |

資料 II- 4 タイの歯科疾患実態調査の概要

対象者数

| | |
|----|-------|
| 男性 | 546名 |
| 女性 | 555名 |
| 合計 | 1101名 |

う蝕有病者率

| 地域 | う蝕有病率 |
|------|--------|
| 全国 | 95.00% |
| 都市部 | 98.20% |
| 地方 | 93.10% |
| バンコク | 97.50% |

一人平均現在歯数およびDMFT

| 地域 | 現在歯数 | DT | MT | FT | DMFT |
|------|------|-----|------|-----|------|
| 全国 | 18.1 | 1.8 | 13.9 | 0.1 | 15.8 |
| 都市部 | 16.3 | 1.7 | 15.7 | 0.2 | 17.6 |
| 地方 | 19.4 | 1.8 | 12.6 | 0 | 14.4 |
| バンコク | 14.5 | 2.7 | 17.5 | 0.2 | 20.4 |

根面う蝕の有病者率

| 地域 | 根面う蝕の有病者率 |
|------|-----------|
| 全国 | 27.0% |
| 都市部 | 28.2% |
| 地方 | 24.4% |
| バンコク | 43.8% |

無歯頸者率

| 地域 | 無歯頸者率 |
|------|-------|
| 全国 | 16.3% |
| 都市部 | 16.7% |
| 地方 | 15.7% |
| バンコク | 18.8% |

CPI Indexの代表値の割合

| 地域 | code 0 | code 1 | code 2 | code 3 | code 4 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全国 | 0.8 | 0.5 | 24.3 | 41.3 | 33.3 |
| 都市部 | 0.4 | 0.8 | 31.4 | 35.6 | 31.8 |
| 地方 | 0.5 | 0.4 | 21 | 42.5 | 35.6 |
| バンコク | 5.2 | 0 | 24.1 | 55.2 | 15.5 |

CPI Indexの各コードの平均セクタント数

| 地域 | code 0 | code 1 | code 2 | code 3 | code 4 | 欠損 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 全国 | 0.1 | 0.1 | 2 | 1.1 | 0.5 | 2.2 |
| 都市部 | 0.1 | 0 | 2 | 0.9 | 0.4 | 2.5 |
| 地方 | 0.1 | 0 | 2 | 1.3 | 0.6 | 2 |
| バンコク | 0.2 | 0 | 1.7 | 0.9 | 0.2 | 3 |

資料 II-5 スリランカの歯科疾患実態調査の概要

対象者数

| 65-74 | 人数 | % |
|-------|------|--------|
| 男性 | 902 | 47.6% |
| 女性 | 992 | 52.4% |
| 合計 | 1894 | 100.0% |

現在歯数

| | |
|---------|------|
| 合計 | 11.5 |
| 男性 | 12.7 |
| 女性 | 10.5 |
| セイロン人 | 10.9 |
| タミル人 | 13.8 |
| イスラム系民族 | 13.3 |

対象者の収入

| 収入(ルピー) | 人数 | 割合(%) |
|------------|------|-------|
| 1500以下 | 1043 | 55.1 |
| 1501-3000 | 334 | 17.6 |
| 3001-5000 | 195 | 10.3 |
| 5001-10000 | 33 | 1.7 |
| 10000超 | 8 | 0.4 |
| 不明 | 280 | 14.8 |

無歯顆者率

| 65-74歳 | 実数(人) | 割合(%) |
|---------|-------|-------|
| 合計 | 1893 | 36.9 |
| 男性 | 902 | 33.3 |
| 女性 | 991 | 40.3 |
| セイロン人 | 1457 | 39.3 |
| タミル人 | 316 | 30.1 |
| イスラム系民族 | 108 | 28.7 |
| 都市 | 551 | 30.1 |
| 地方 | 316 | 39.7 |

う蝕罹患率(%)

| | |
|-----------------|-------|
| スリランカ | 64.45 |
| 男性 | 62.20 |
| 女性 | 66.50 |
| セイロン人 | 64.52 |
| タミル人 | 56.96 |
| イスラム系民族 | 81.48 |
| 都市 | 74.41 |
| 地方 | 60.46 |
| 月収1500ルピー以下 | 59.31 |
| 月収1501-3000ルピー | 70.66 |
| 月収3001-5000ルピー | 74.36 |
| 月収5001-10000ルピー | 72.73 |

DMFT

| | DT | MT | FT | DMFT |
|-----------------|-----|------|-----|------|
| スリランカ | 2.1 | 20.4 | 0.1 | 22.5 |
| 男性 | 1.7 | 19.2 | 0.1 | 21.0 |
| 女性 | 2.4 | 21.4 | 0.1 | 23.8 |
| セイロン人 | 2.0 | 21.0 | 0.1 | 23.1 |
| タミル人 | 1.8 | 18.1 | - | 20.0 |
| イスラム系民族 | 3.2 | 18.6 | 0.1 | 21.9 |
| 都市 | 2.6 | 19.0 | 0.2 | 21.7 |
| 地方 | 1.9 | 20.9 | - | 22.8 |
| 月収1500ルピー以下 | 1.8 | 20.5 | - | 22.3 |
| 月収1501-3000ルピー | 2.5 | 19.6 | 0.1 | 22.2 |
| 月収3001-5000ルピー | 2.3 | 19.6 | 0.2 | 22.1 |
| 月収5001-10000ルピー | 1.5 | 18.4 | 0.3 | 20.2 |

義歯装着者数

| 人数 (人) | 部分床義歯装着者 | | | | | | 全部床義歯装着者 | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| | 上顎 | | 下顎 | | 上下顎 | | 上顎 | | 下顎 | | 上下顎 | | |
| | 実数 (人) | 割合 (%) | |
| 合計 | 1894 | 55 | 2.9 | 27 | 1.4 | 17 | 0.9 | 152 | 8.0 | 117 | 6.2 | 109 | 5.8 |
| 男性 | 902 | 24 | 2.7 | 9 | 1.0 | 8 | 0.9 | 46 | 5.1 | NA | NA | NA | NA |
| 女性 | 992 | 31 | 3.1 | 18 | 1.8 | 9 | 0.9 | 106 | 10.7 | NA | NA | NA | NA |
| セイロン人 | 1458 | 41 | 2.8 | 17 | 1.2 | 8 | 0.6 | 128 | 8.8 | NA | NA | NA | NA |
| タミル人 | 316 | 8 | 2.5 | 8 | 2.5 | 7 | 2.2 | 11 | 3.5 | NA | NA | NA | NA |
| イスラム系民族 | 108 | 6 | 5.6 | 2 | 1.9 | 2 | 1.9 | 13 | 12.0 | NA | NA | NA | NA |

III. 日本と海外の歯科疾患実態調査の国際比較

方法

日本では 6 年ごとに歯科疾患実態調査が行われ、日本国民の歯科疾患の有病状況が示されている。そこで、前述のⅡの研究から得られた 5 カ国の歯科疾患実態調査の結果と、これまでに実施された日本の調査結果との比較を試みた。それぞれの国で同じ基準で調査が実施されていないため、対象年齢や評価方法が異なり、単純に比較することは困難であったので、諸外国の指標に相当する部分を日本の歯科疾患実態調査から抜粋し、比較検討を行った。なお、日本の歯科疾患実態調査結果は、諸外国の調査年に一番近い年の資料を使用した。

結果

1. 6 カ国の比較（図Ⅲ-1-9）

今回の歯科疾患実態調査の結果から、日本、アメリカ、中国、韓国、タイ、スリランカの 6 カ国で共通して比較可能であった項目は、無歯顎者率と齲歯有病状況であった。

1) 無歯顎者の割合

65 歳から 74 歳の無歯顎者率の数値を図Ⅲ-1 に示した。中国が最も少なく 11.87%、スリランカが最も高く 40.3% であり、日本はアメリカよりやや良好な状態であった。図Ⅲ-2, Ⅲ-3 に男女別の集計を示す。無歯顎者の割合は、男性ではアメリカが 34.54%、スリランカが 33.30% と高く、日本は 22.25%（1987 年）、16.49%（1999 年）であった。女性ではアメリカが 38.16%、スリランカが 40.30% であり、日本は 35.33%（1987 年）、26.03%（1999 年）であった。

タイの調査では、対象年齢が 60-69 歳で集計されていたため、別の図として図Ⅲ-4 として日本との比較を示した。タイと日本では大きな差は認められなかった。

また韓国の調査結果からは、無歯顎者率は算出できなかった。

2) 齲歯有病状況

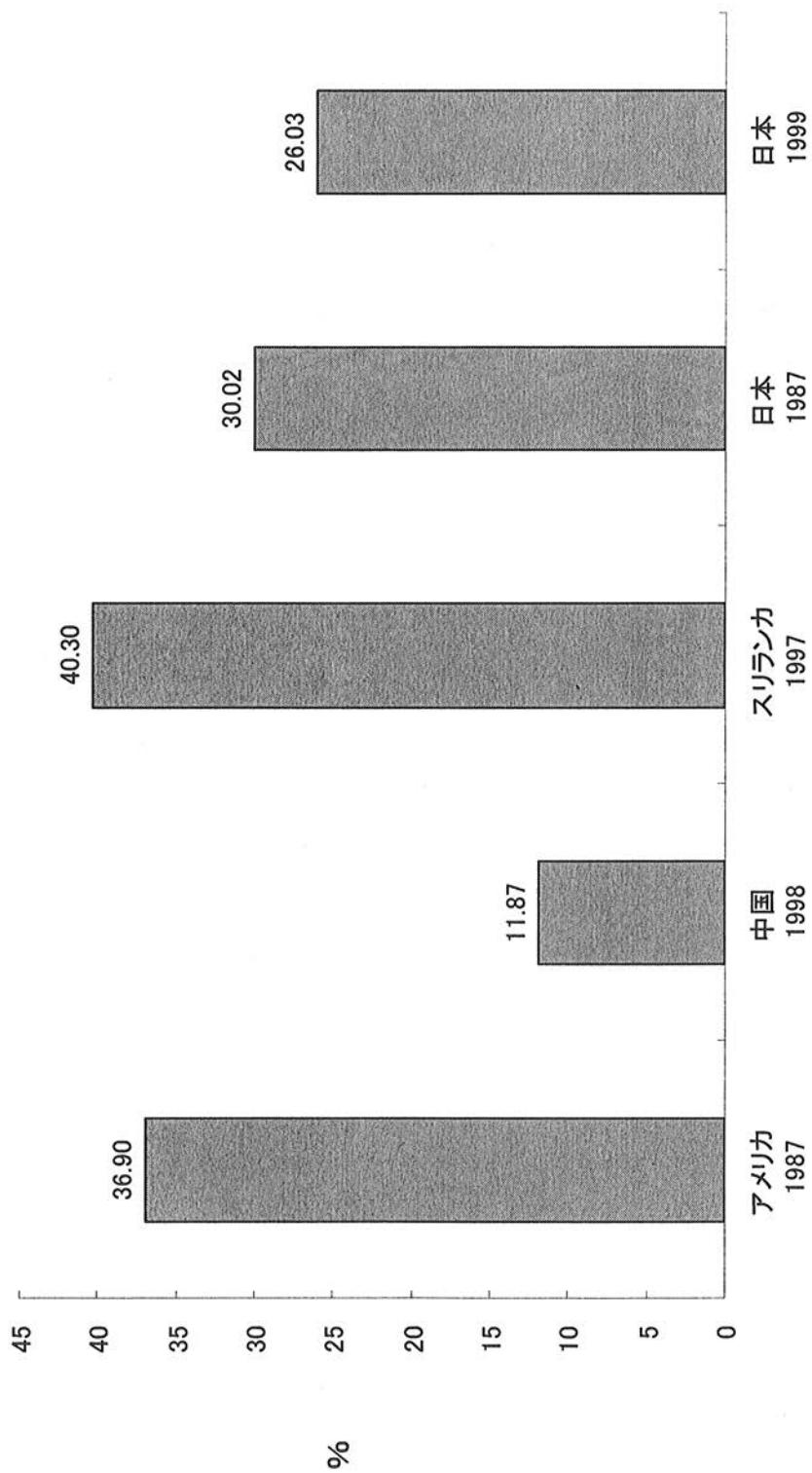
図Ⅲ-5-8 にそれぞれ 65 歳から 74 歳の未処置歯数(DT)、喪失歯数(MT)、処置歯数(FT)、DMF 歯数を示した。また、無歯顎者率と同様に、タイの調査では対象年齢が 60-69 歳で集計されていたため、図Ⅲ-9 に日本とタイの DMF 歯数の比較を示した。

未処置歯数に関しては、日本は韓国とほぼ同程度であり、中国、スリランカより低く、アメリカより多い状況であった。

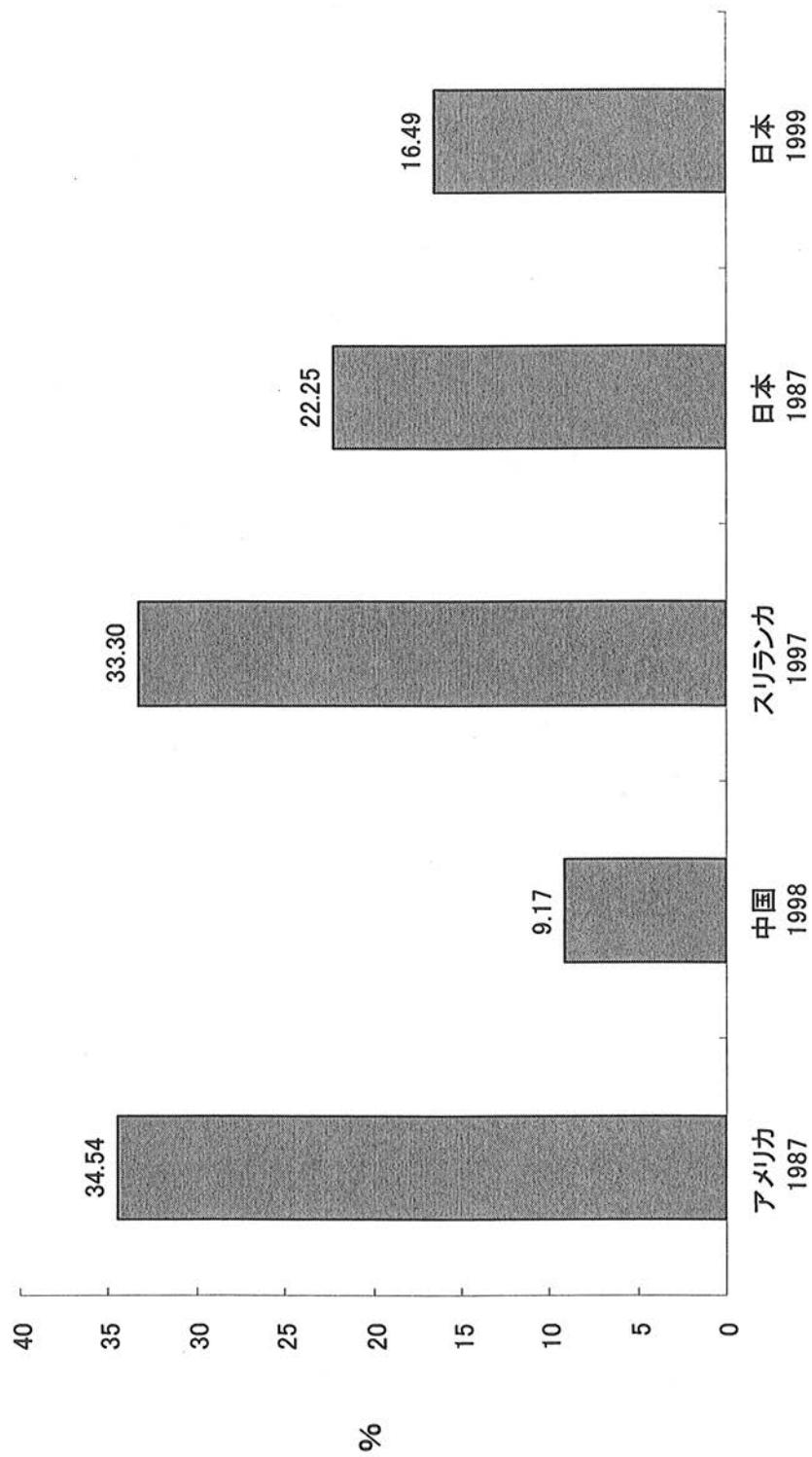
喪失歯数に関しては、日本はアメリカ、韓国より多く、タイとほぼ同程度でスリランカより少なかった。中国のデータから喪失歯数は算出できなかった。

処置歯数に関しては、日本はアメリカより少なかったが、中国、韓国、タイ、スリランカと比較して極端に多かった。

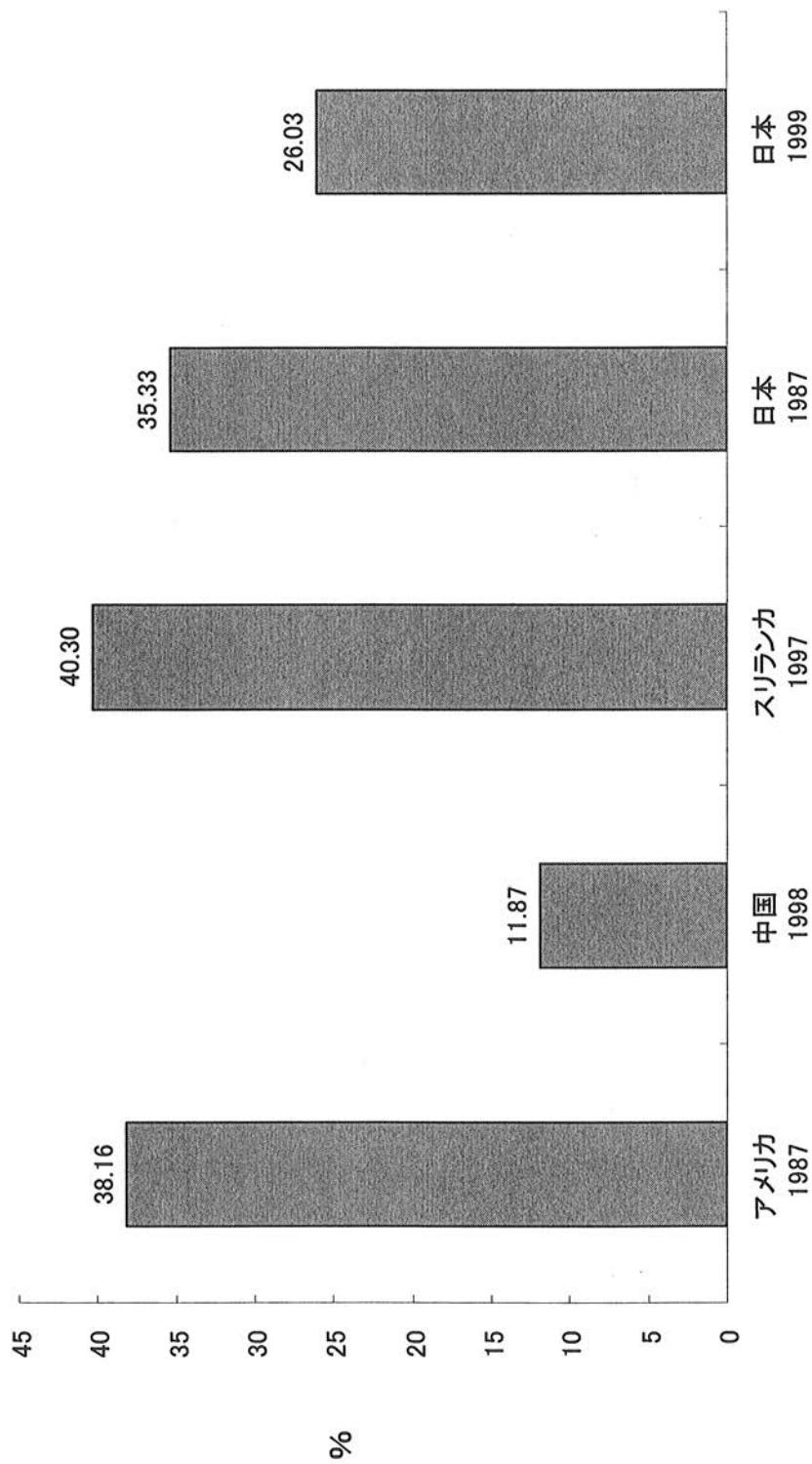
図III-1 無歯額者率の比較その1
65-74歳(男女計)



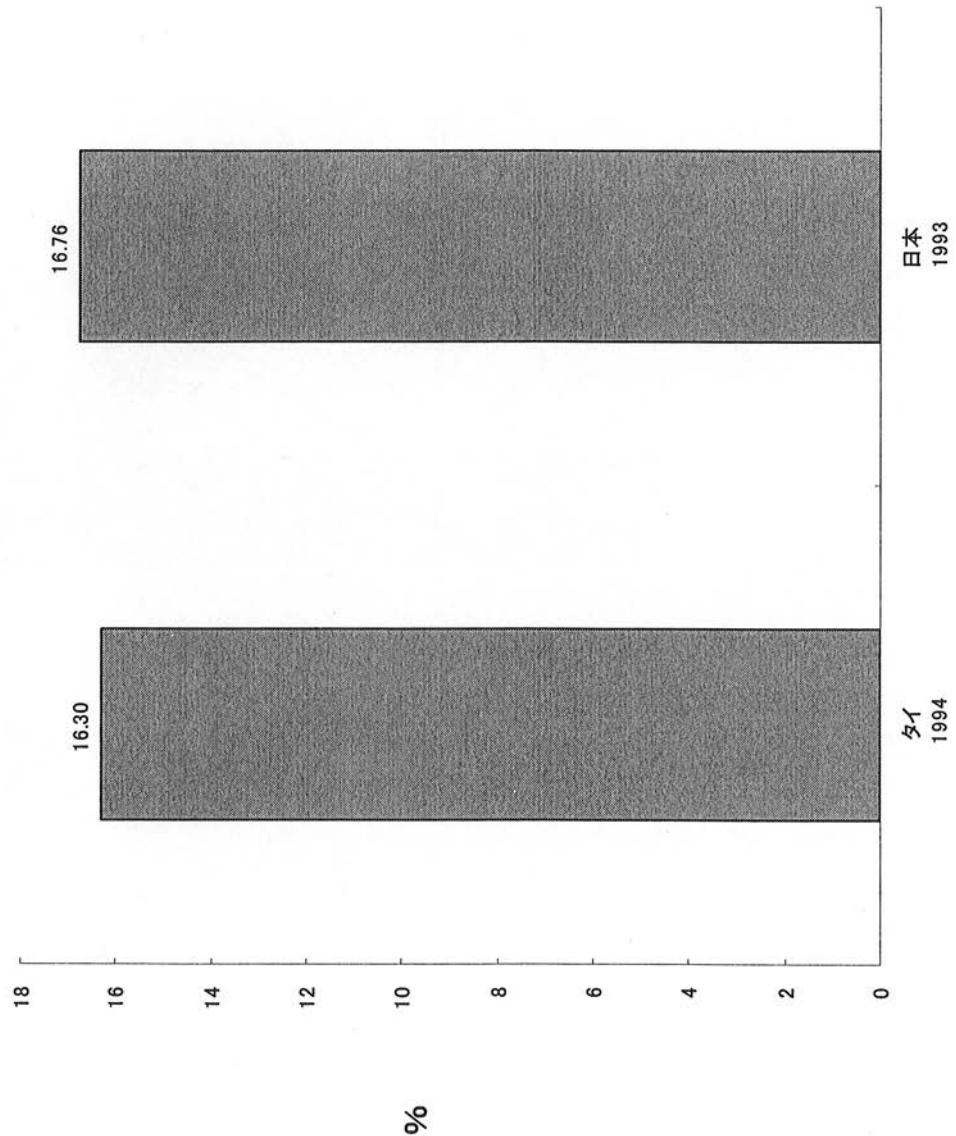
図III-2 無歯駕駛者率の比較
65-74歳(男性)



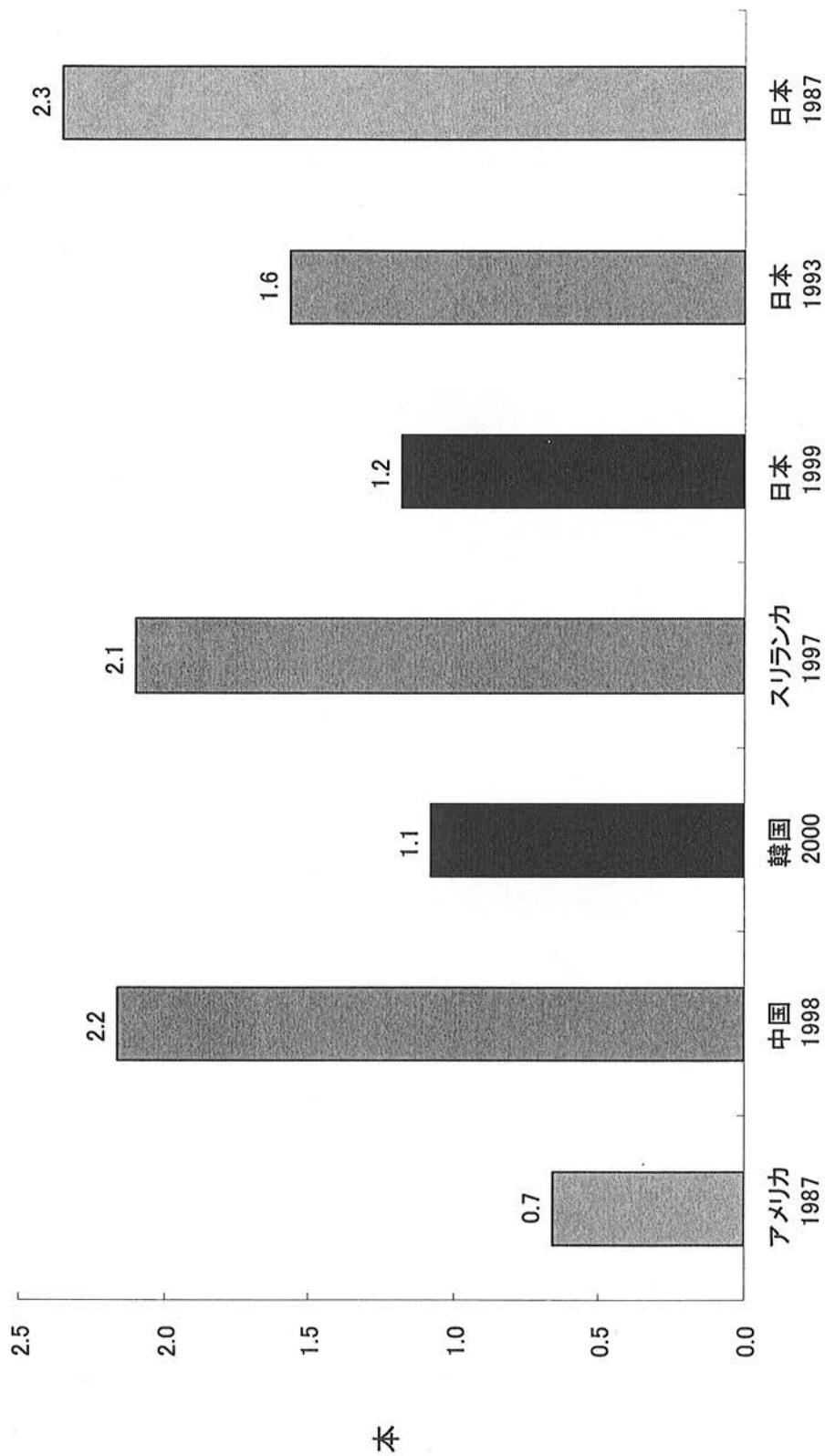
図III-3 無歯顎者率の比較 その3
65-74歳(女性)



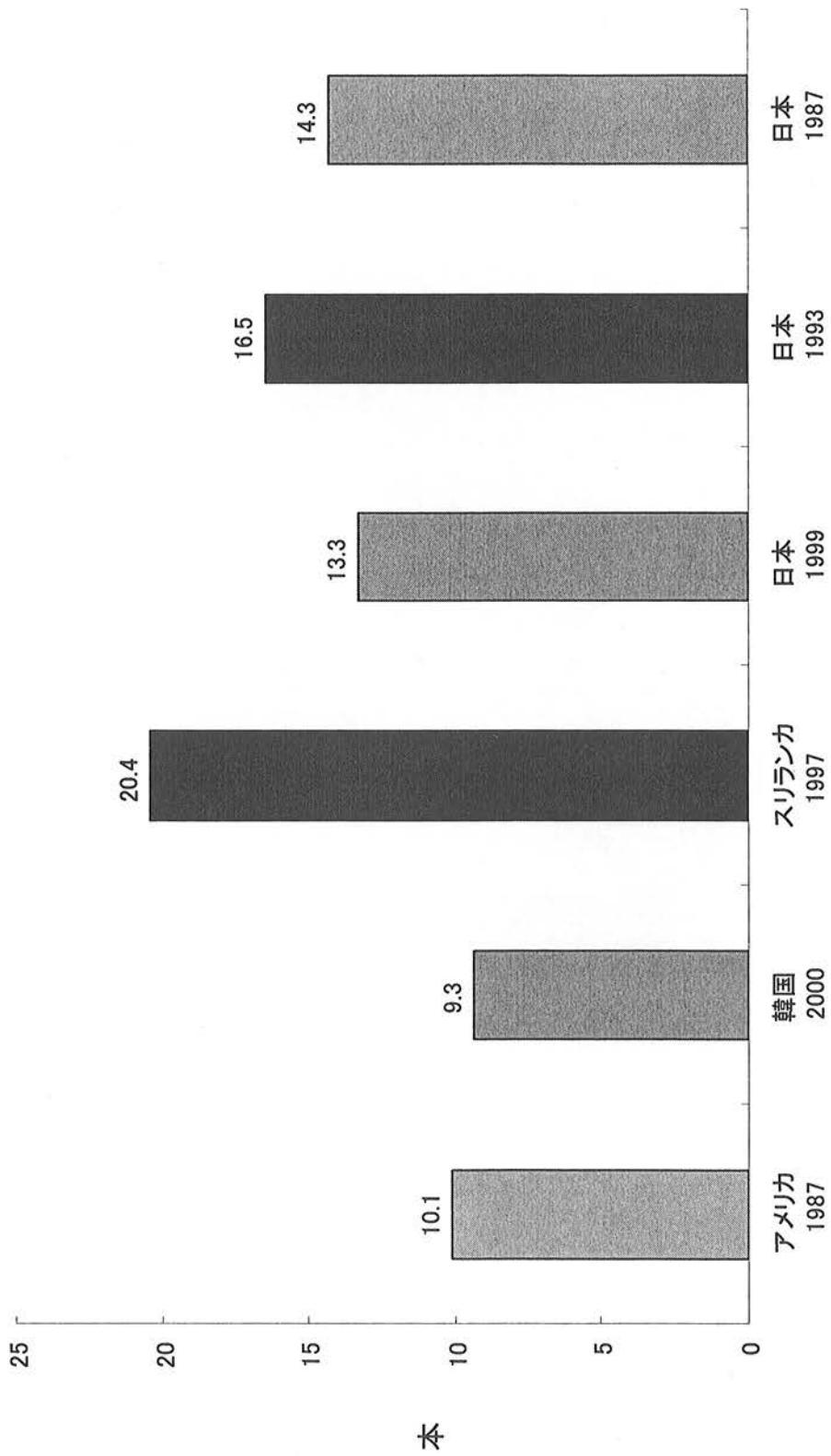
図III-4 無歯器者率 その4
日本とタイの比較 60-69歳



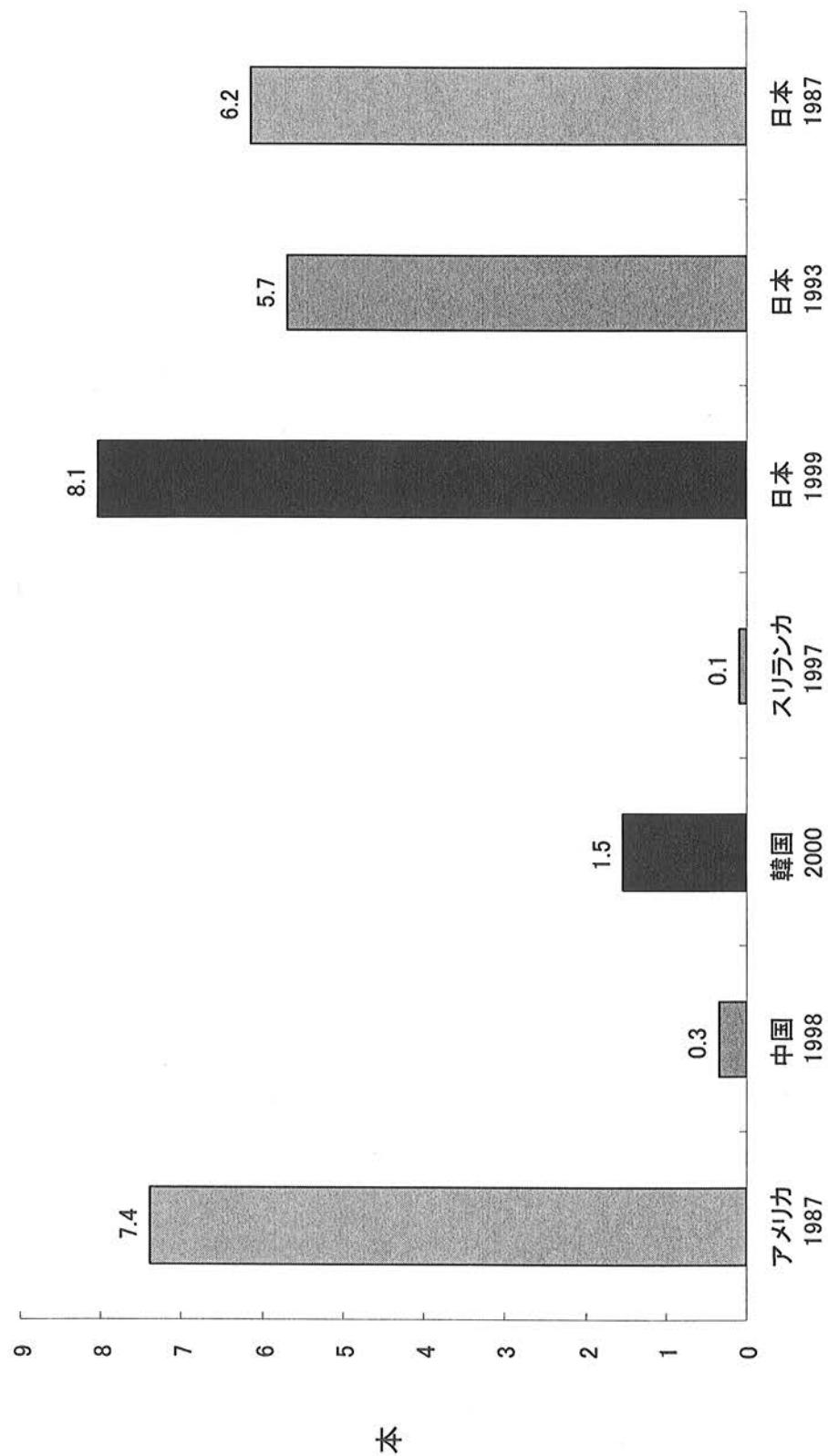
図III-5 未処置歯数の比較(DT)



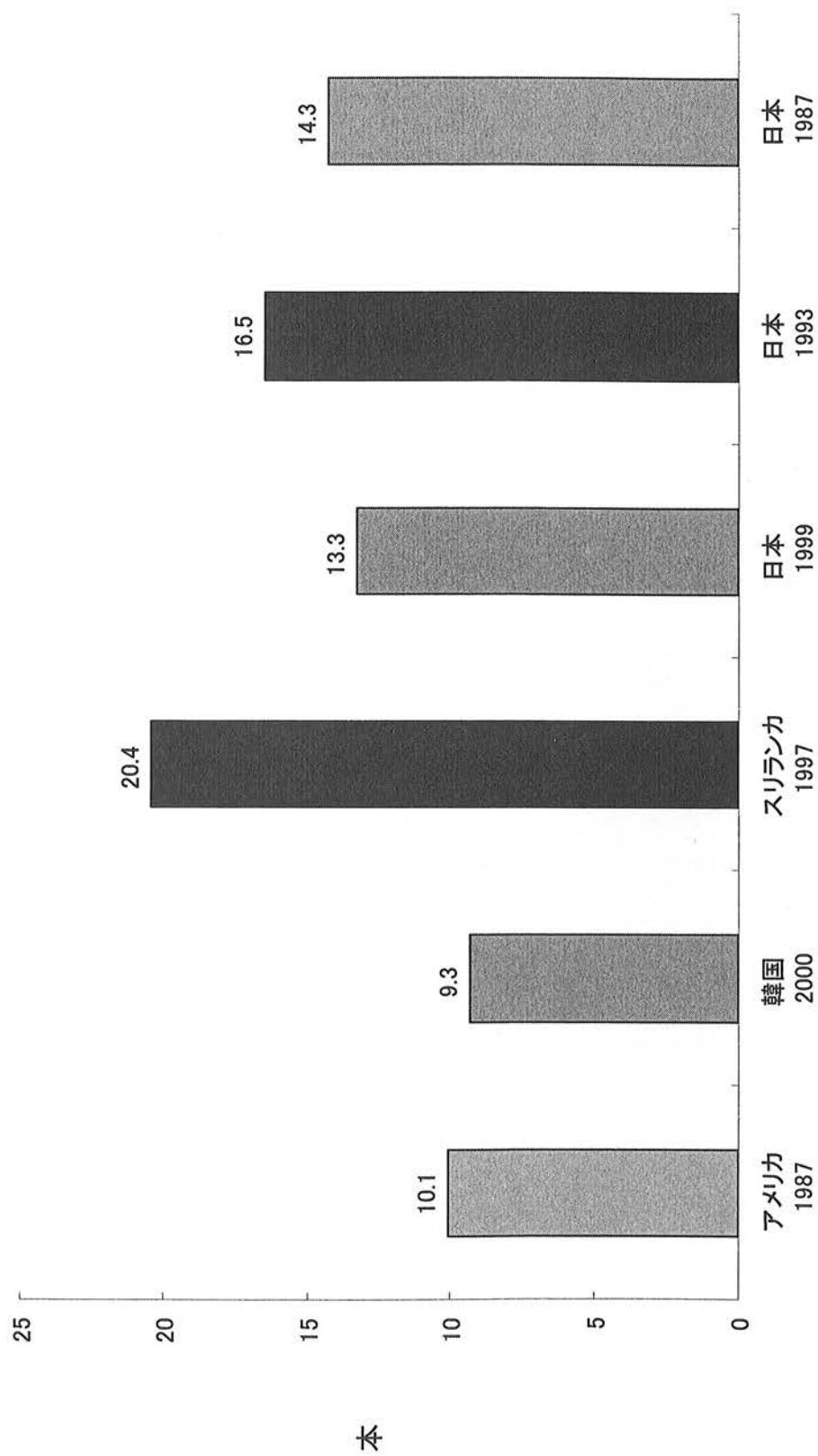
図III-6 喪失歯数の比較(MIT)



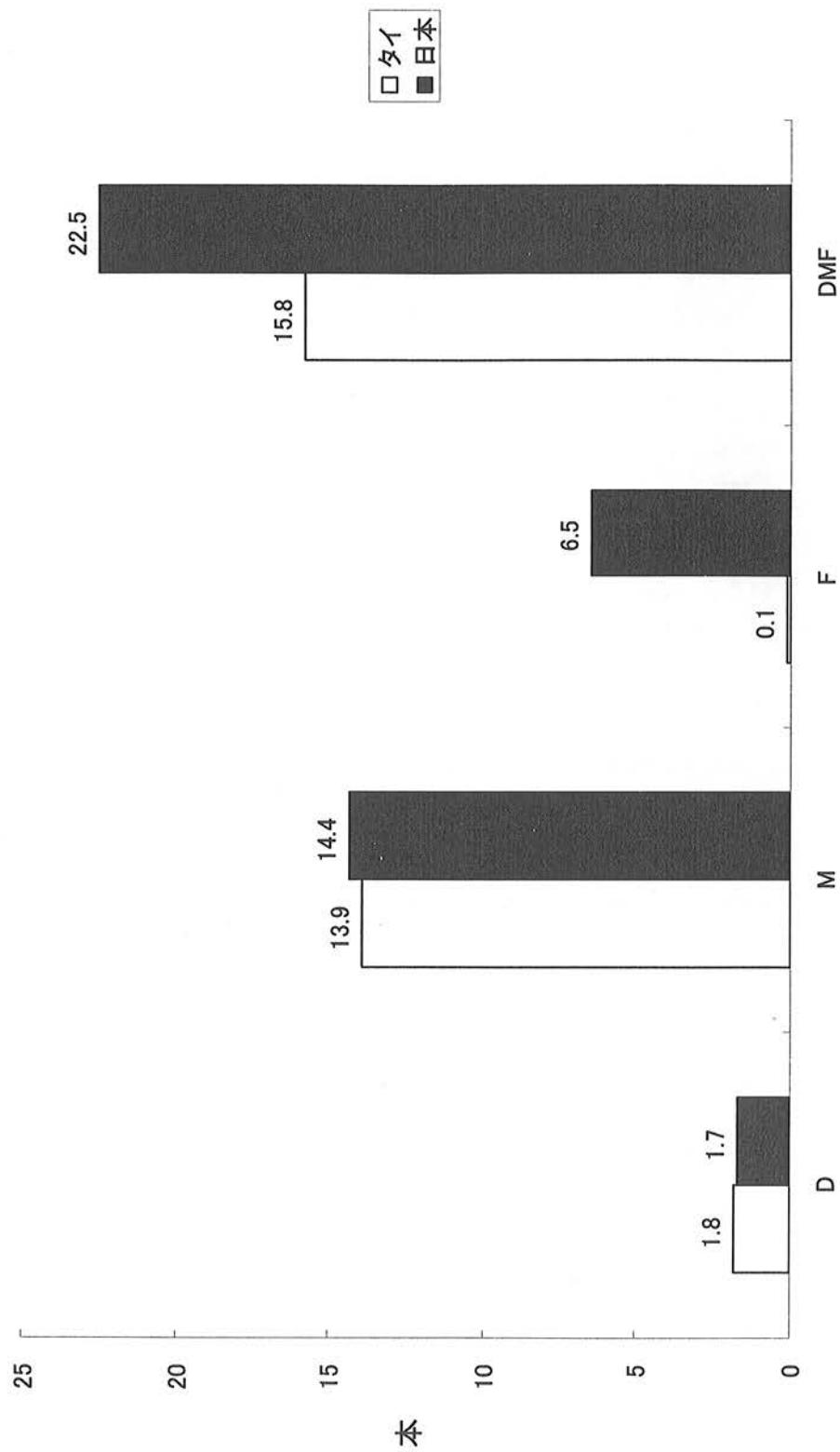
図III-7 処置歯数の比較(FTT)



図III-8 DMF歯齒数の比較



図III-9 日本とタイの比較



2. 日本と各国との2カ国間の比較（図III-10-27）

1) 日本とアメリカとの比較（図III-10-14）

1986年のアメリカの調査結果と、日本の1987年の歯科疾患実態調査の結果を比較した。無歯顎者の割合では、75・79歳、80歳以上のいずれもアメリカより日本が無歯顎者の割合が多くかった（図10）。有歯顎者のみ算出した一人平均現在歯数は、いずれの年齢でもアメリカが多く、65・69歳、70・74歳、75・79歳では年齢の増加とともにその差は大きくなつた（図III-11）。一人平均DFTでは、75・79歳を除いて日本がアメリカよりも高いが、大きな差は認められなかつた（図III-12）。DFTの中のDT、FTの割合を比較すると、アメリカは日本よりも処置歯（FT）の割合が多く、日本では未処置歯（DT）の割合が多かつた（図III-13,14）。

2) 日本と中国との比較（図III-15-17）

1995年5月から1996年1月に行われた第二次全国口腔健康流行病学抽様調査の対象年齢65歳～74歳の結果を、日本の1993年の歯科疾患実態調査の同年齢の結果と比較した。喪失歯数を日本と中国を比較した場合、中国が日本よりも低い値であり、日本は3歯以上喪失している者の割合が高かつた（図III-15）。中国では65歳から74歳で20歯以上あるものの割合が57.68%もあり非常に高い値であった（図III-16）。一人平均現在歯数では、中国では無歯顎者を含む場合でも18歯あり非常に高い値であった（図III-17）。

3) 日本と韓国との比較（図III-18-21）

2000年に行われた韓国国民口腔健康実態調査と日本の1999年の歯科疾患実態調査の結果を55歳以上の者のデータを用いて比較した。齲歫罹患率は韓国、日本ともに90%を超える高い値であるが、韓国が日本よりも各年代とともにやや低い値であった（図III-18）。年代別に未処置歯数、喪失歯数、処置歯数を比較した結果を図III-19-21に示す。未処置歯数は日本では年代の増加とともに減少するに対し、韓国では増加する傾向がみられた。喪失歯数は韓国と比較して日本が高い値を示し、年代の増加とともにその差が大きくなる傾向がみられた。処置歯数に関しては日本は韓国と比較して非常に高い値であった。

4) 日本とタイの比較（図III-22）

1994年に実施された第4回タイ王国歯科疾患実態調査報告の対象年齢60歳～74歳のデータを、日本の1993年の歯科疾患実態調査と比較した。タイと日本では無歯顎者の割合、平均喪失歯数では大きな差はなかつたが、60歳～74歳で20歯以上自分の歯を有する者の割合はタイが47.2%であるのに対し、日本では37.32%と約10%の差が見られた（図III-22）。

5) 日本とスリランカの比較（図III-23-27）

1994・95年に実施されたスリランカの調査結果を、日本の1993年の歯科疾患実態調査の値と比較した。対象者の年齢は、65歳～74歳である。

一人平均現在歯数は大きな差はみられないが（図III-23）、無歯顎者の割合がスリランカで

は日本と比べて高い値であった（図III-24）。義歯装着者を比較した結果、スリランカでは義歯装着者が非常に低い値であった（図III-25）。また一人平均喪失歯数の比較では、日本がスリランカよりも低い値であり（図III-26）、喪失歯の割合ではスリランカが日本よりも多数歯を喪失している傾向がみられた（図III-27）。

考察

本研究では、各国の歯科疾患実態調査報告の結果を、調査年の近い日本の歯科疾患実態調査の結果を利用して、同じ年齢層、同じ基準で比較を試みた。その結果、日本、アメリカ、タイ、韓国、中国、スリランカの6カ国で共通して比較することが可能であった項目は、無歯顎者率と齲歯有病状況であったが、それでも調査対象となる年齢層が異なっていたり、項目が算出されていない国もあった。日本との2カ国共通で比較できた歯科保健指標はいくつかあり、興味深いデータが得られたが、それを基準として多国間の国際比較を行うことは困難であった。

今回明らかになったことは、現在、高齢者の歯科保健状況を示す指標や基準、集計方法は各国ごとに異なり、単純に国際比較することは困難であるということである。今後、高齢者に関する国際歯科保健データベースを構築していくためには、幾つかの指標を定めて比較検討していく必要があり、複数の有効な比較方法を確立し、普及していくことが重要であると考察された。

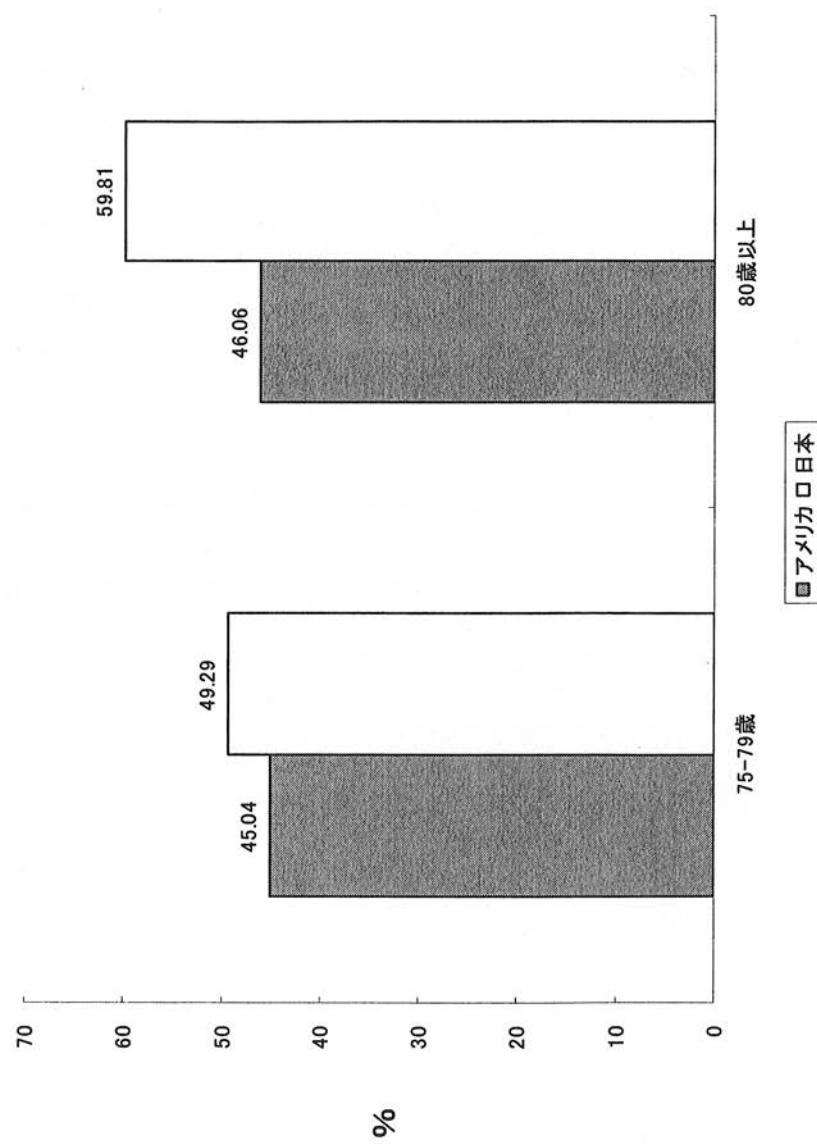
なお、本研究の要旨の一部は、平成14年9月14日、大阪において開催された第51回日本口腔衛生学会学会総会において発表した。

演題：各国の歯科疾患実態調査による高齢者の歯科保健状況に関する国際比較

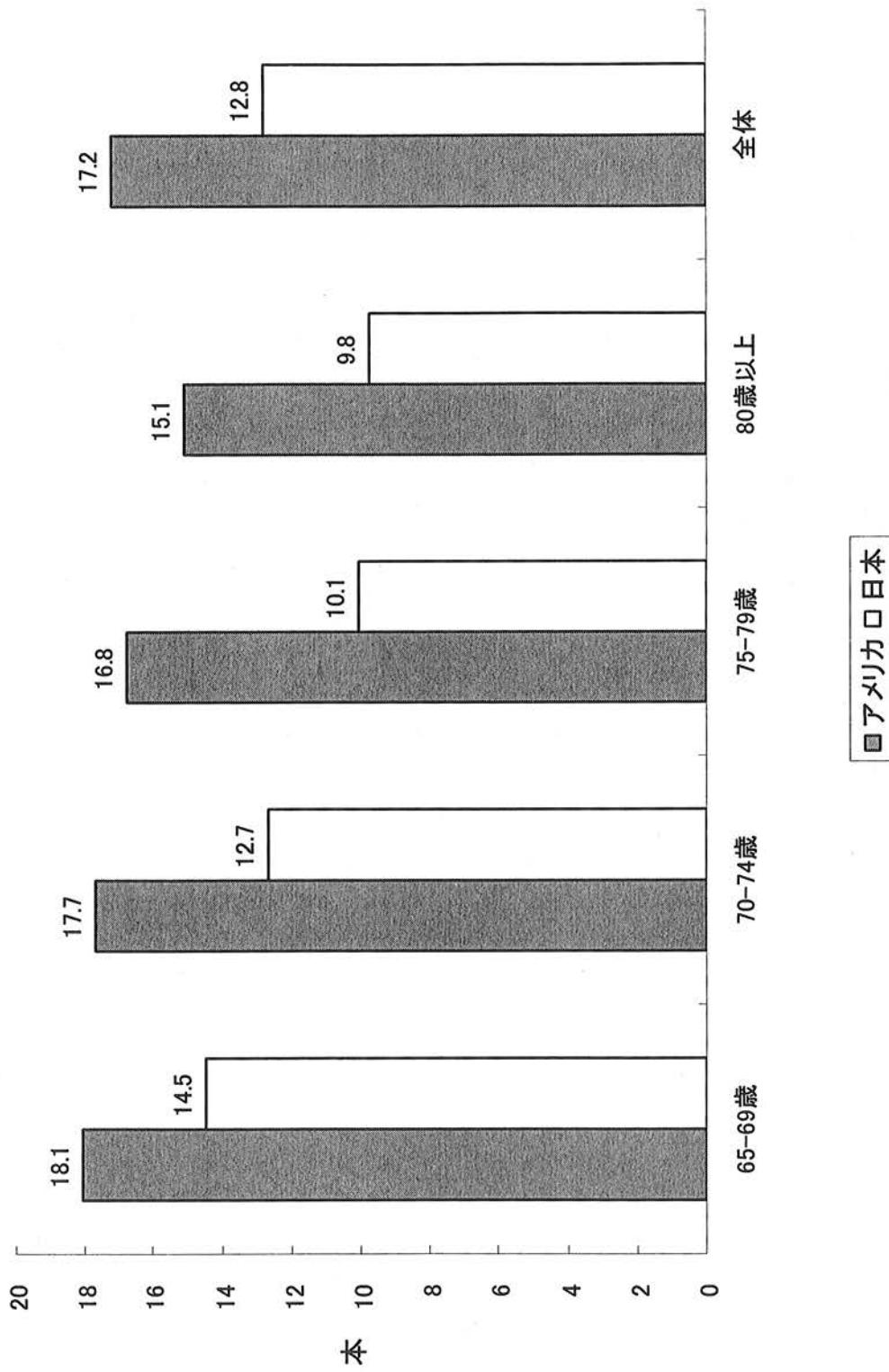
演者：渡辺英明、阿部 智、金山 晶、杉浦 剛、品田佳世子、下山和弘、野村義明、安藤雄一、川口陽子

抄録：口腔衛生会誌、52:434-435、2002

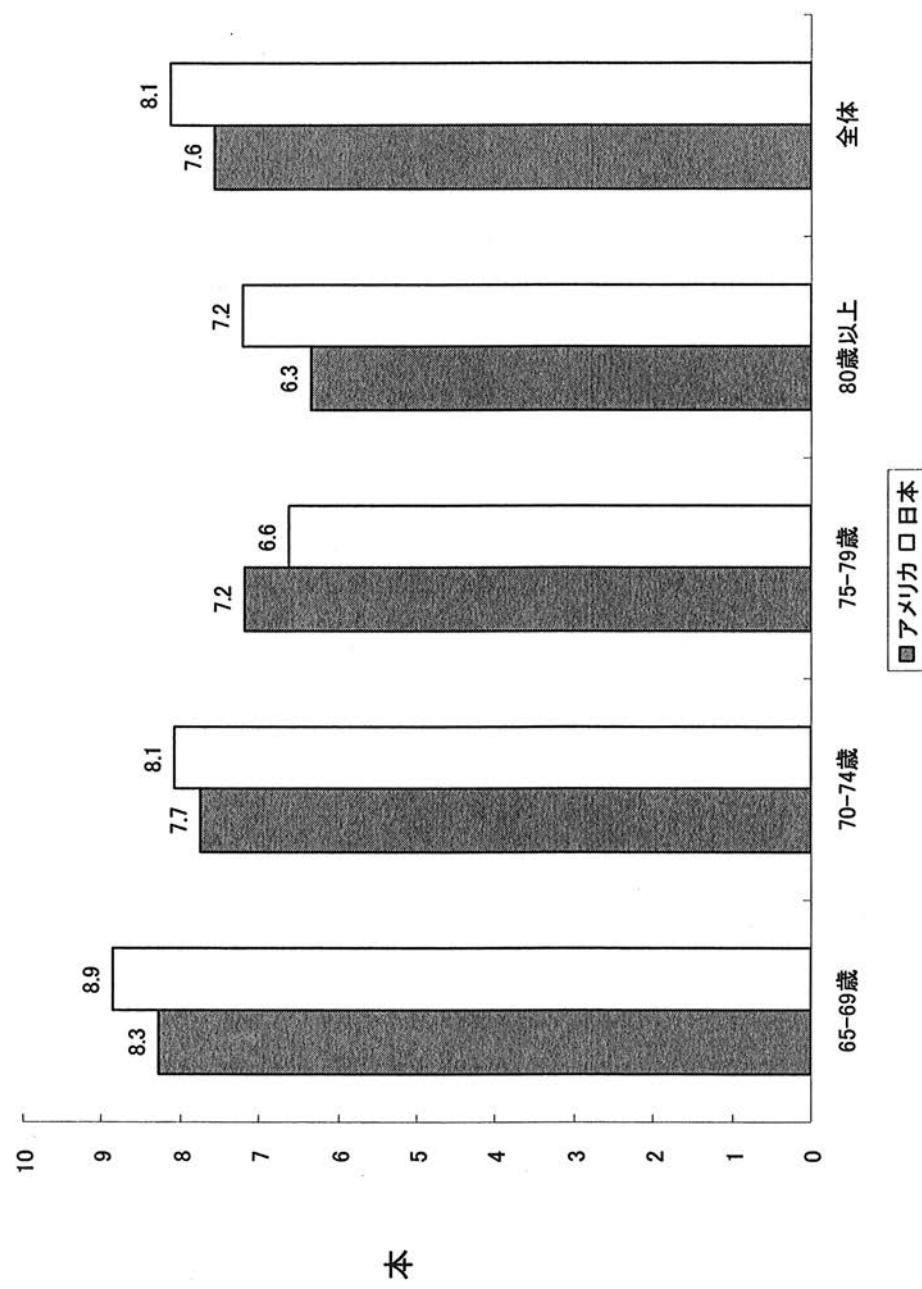
図 III-10 日本とアメリカの比較
無歯顎者率



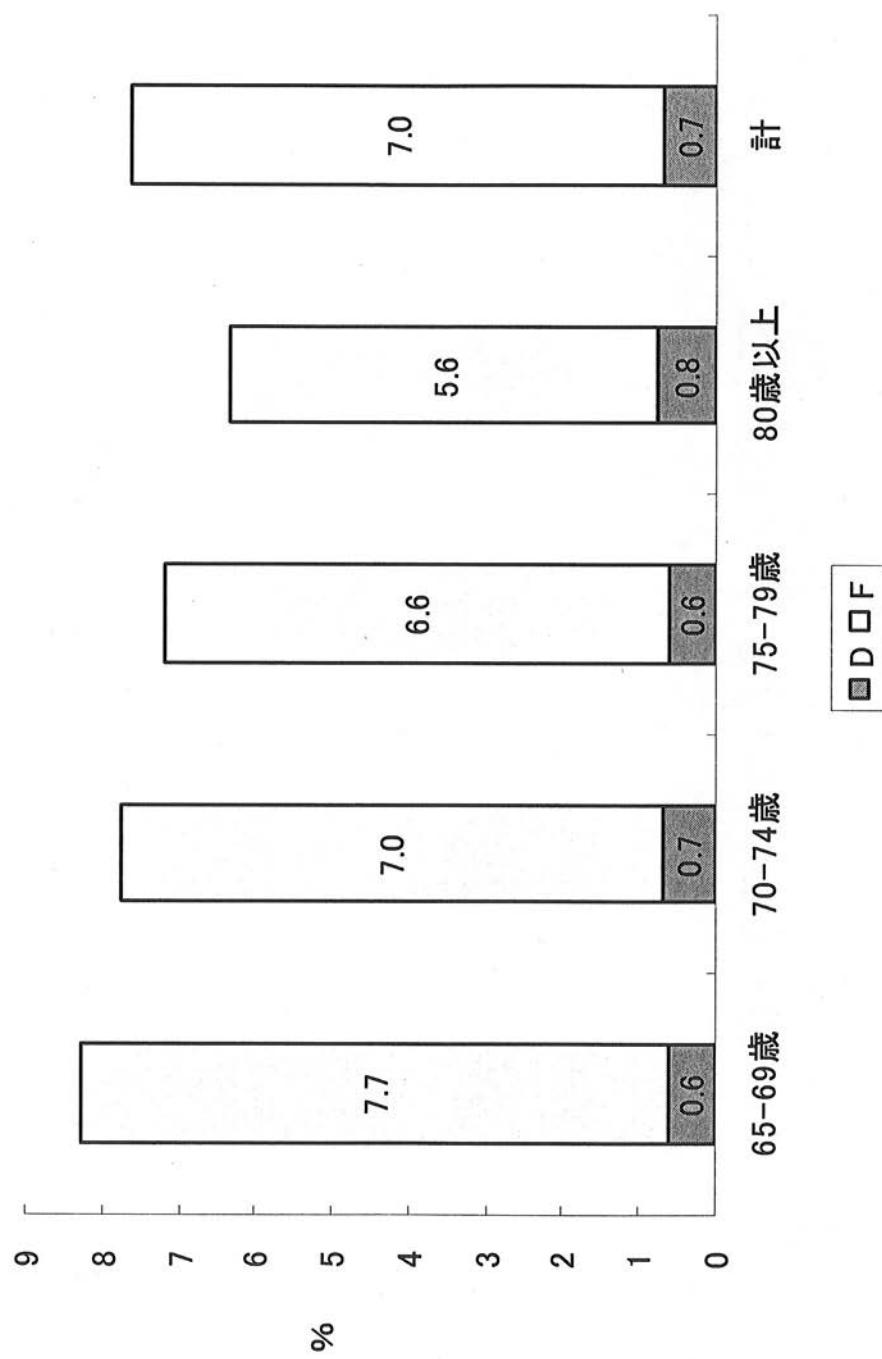
図III-11 日本とアメリカの比較
一人平均現在歯数
有歯齶者のみから算出



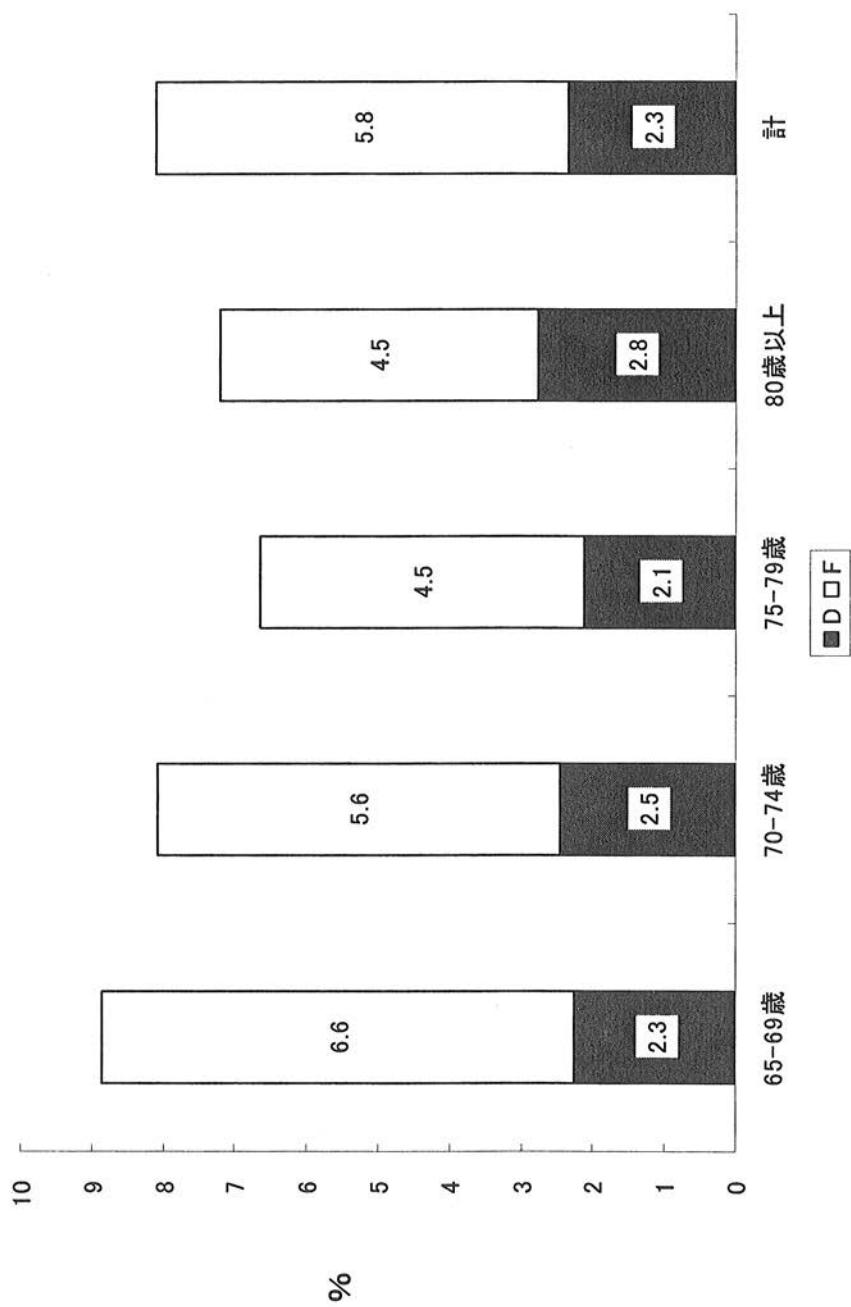
図III-12 日本とアメリカの比較 —人平均DFT

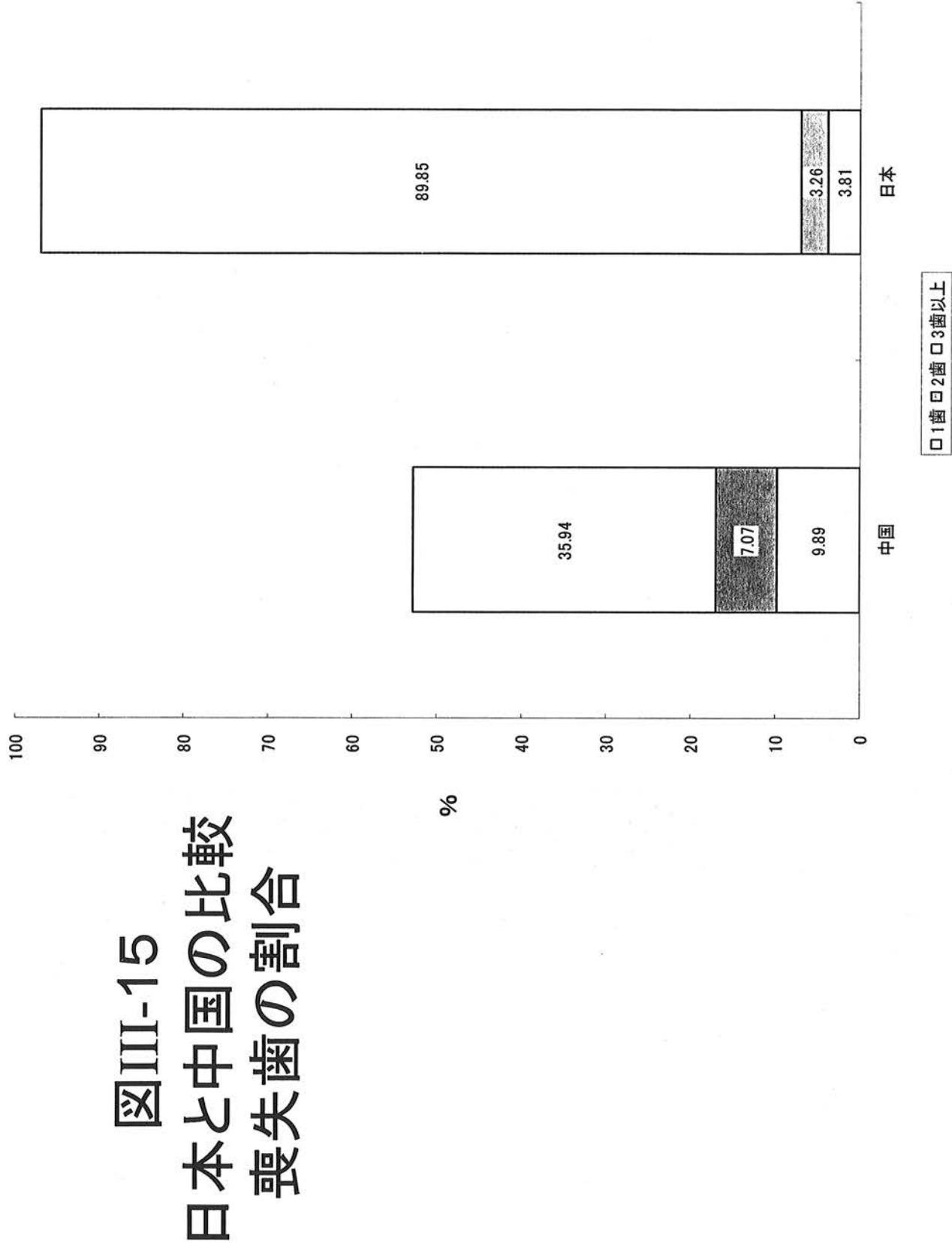


図III-13 アメリカ
未処置歯(D)、処置歯(F)の割合

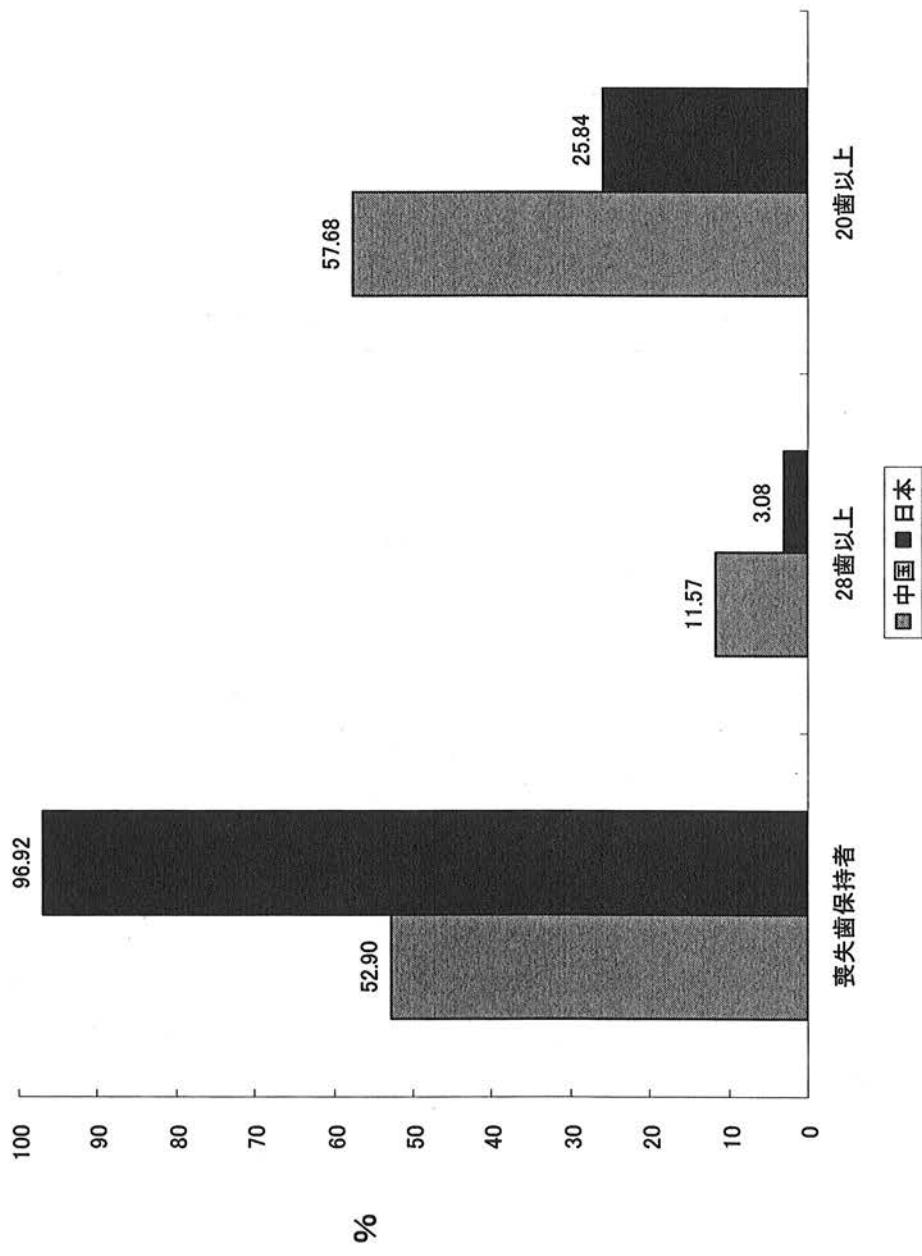


図III-14 日本
未処置歯(D)、処置歯(F)の割合

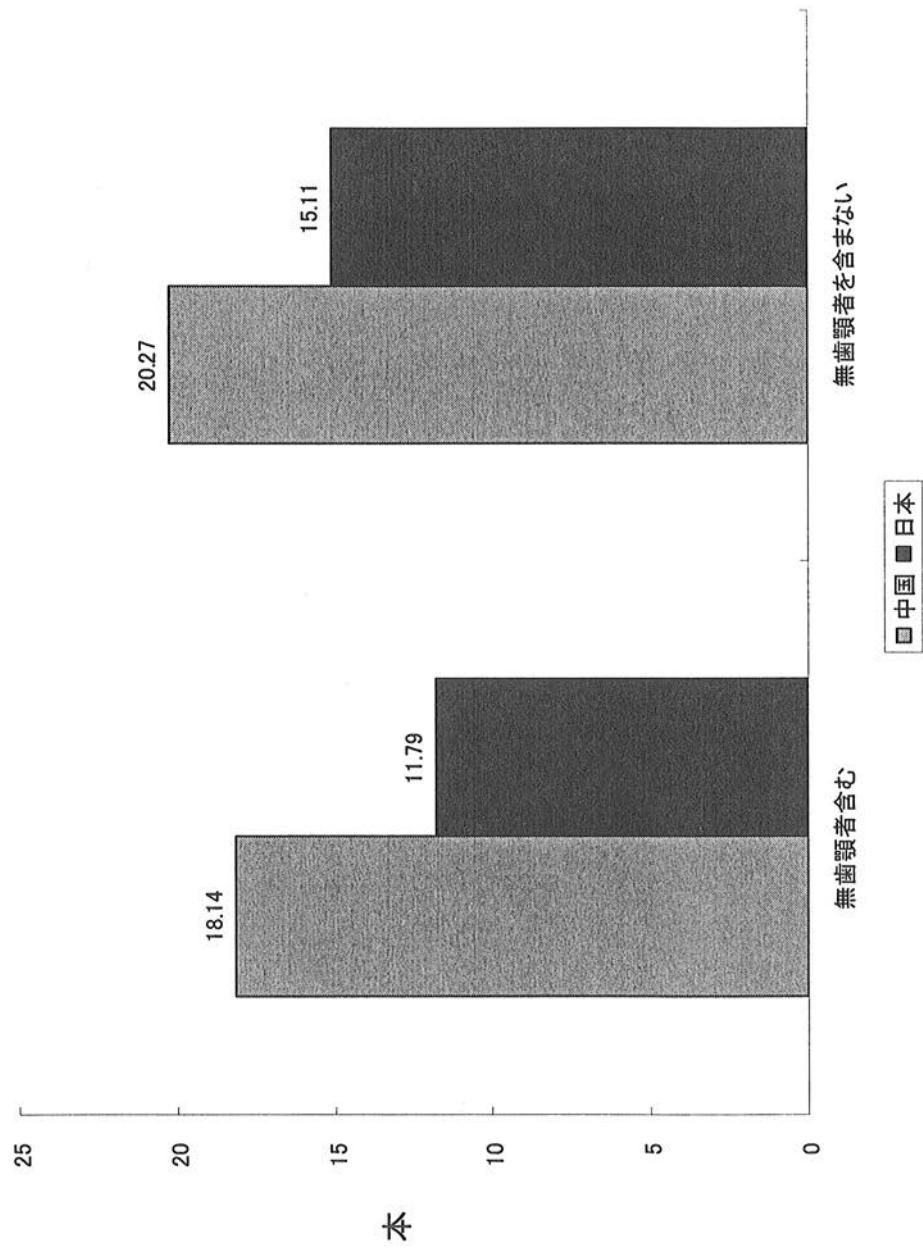




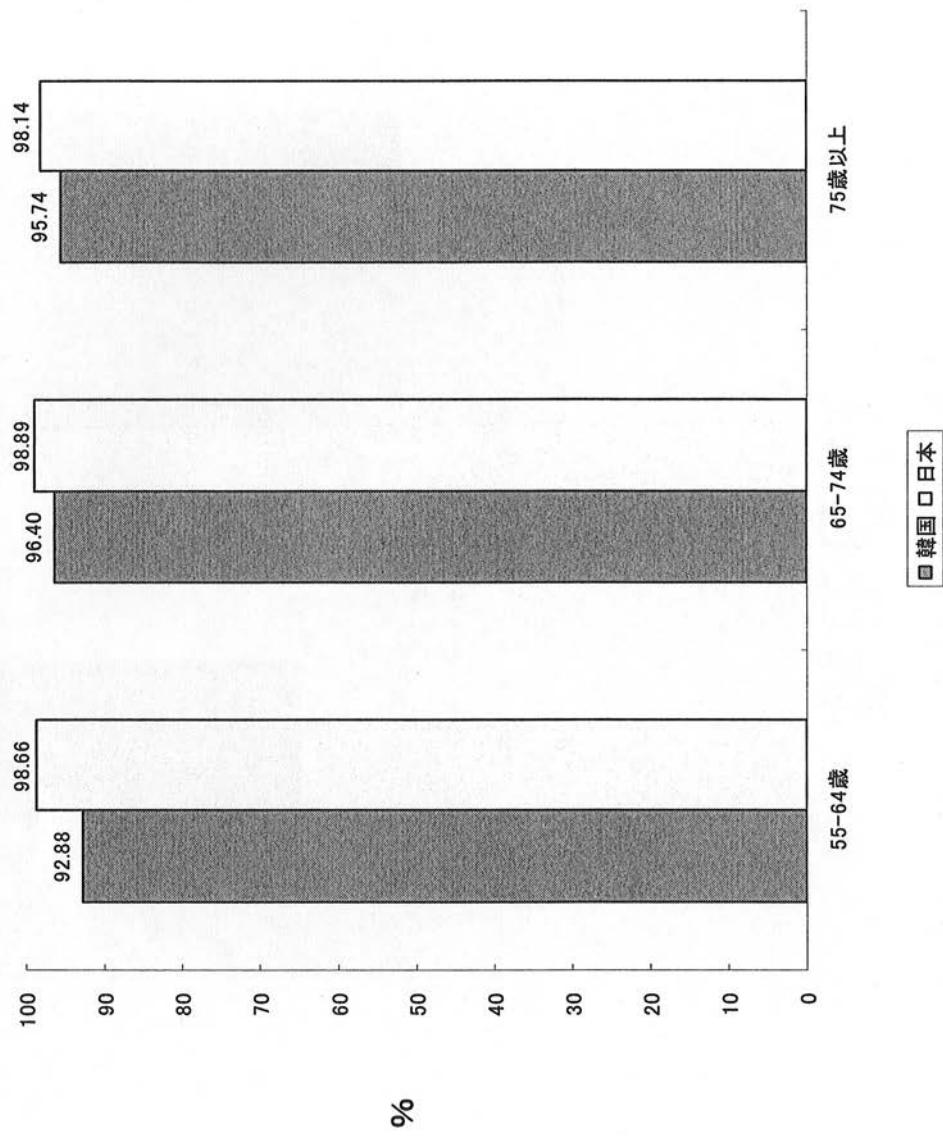
図III-16 日本と中国の比較
無歯齶者率、28歯、20歯以上あるものの割合



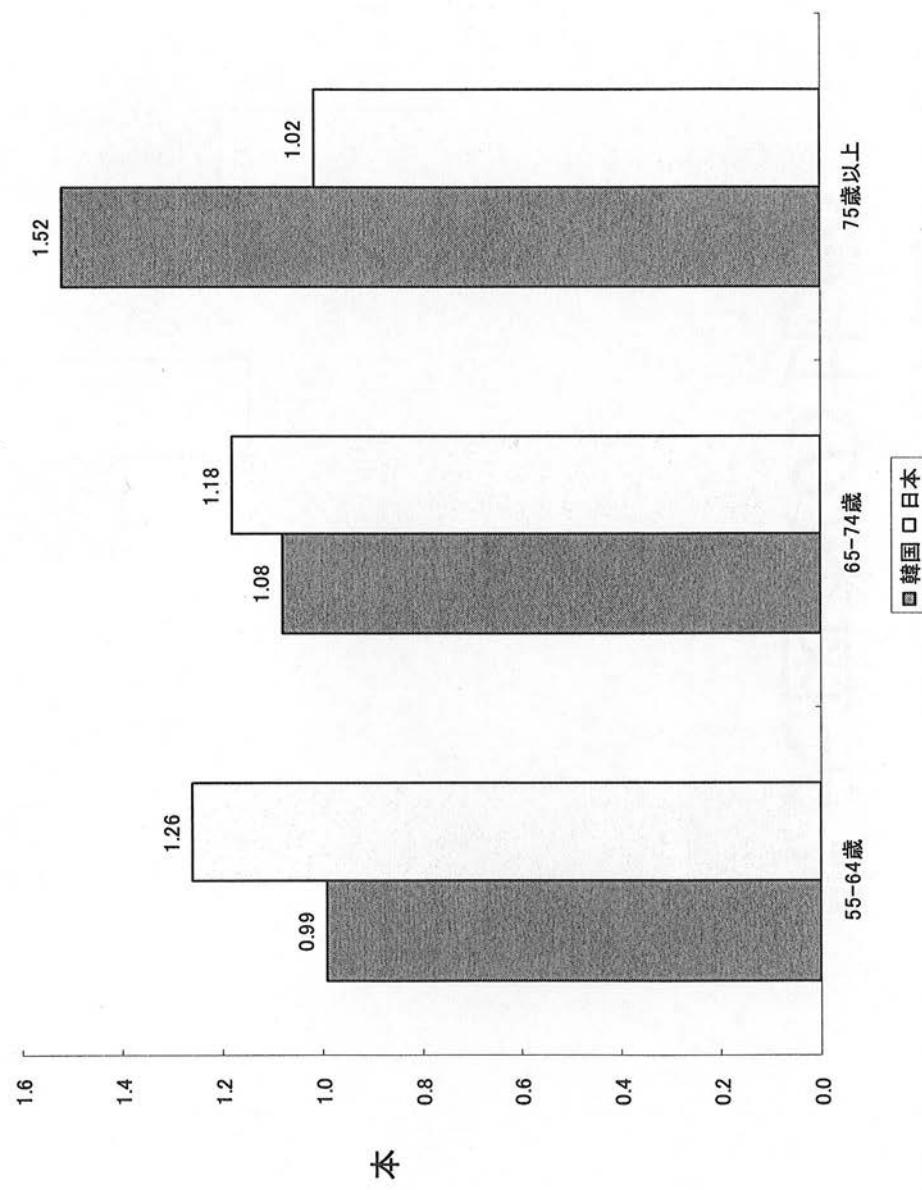
図III-17 日本と中国の比較
現在歯数



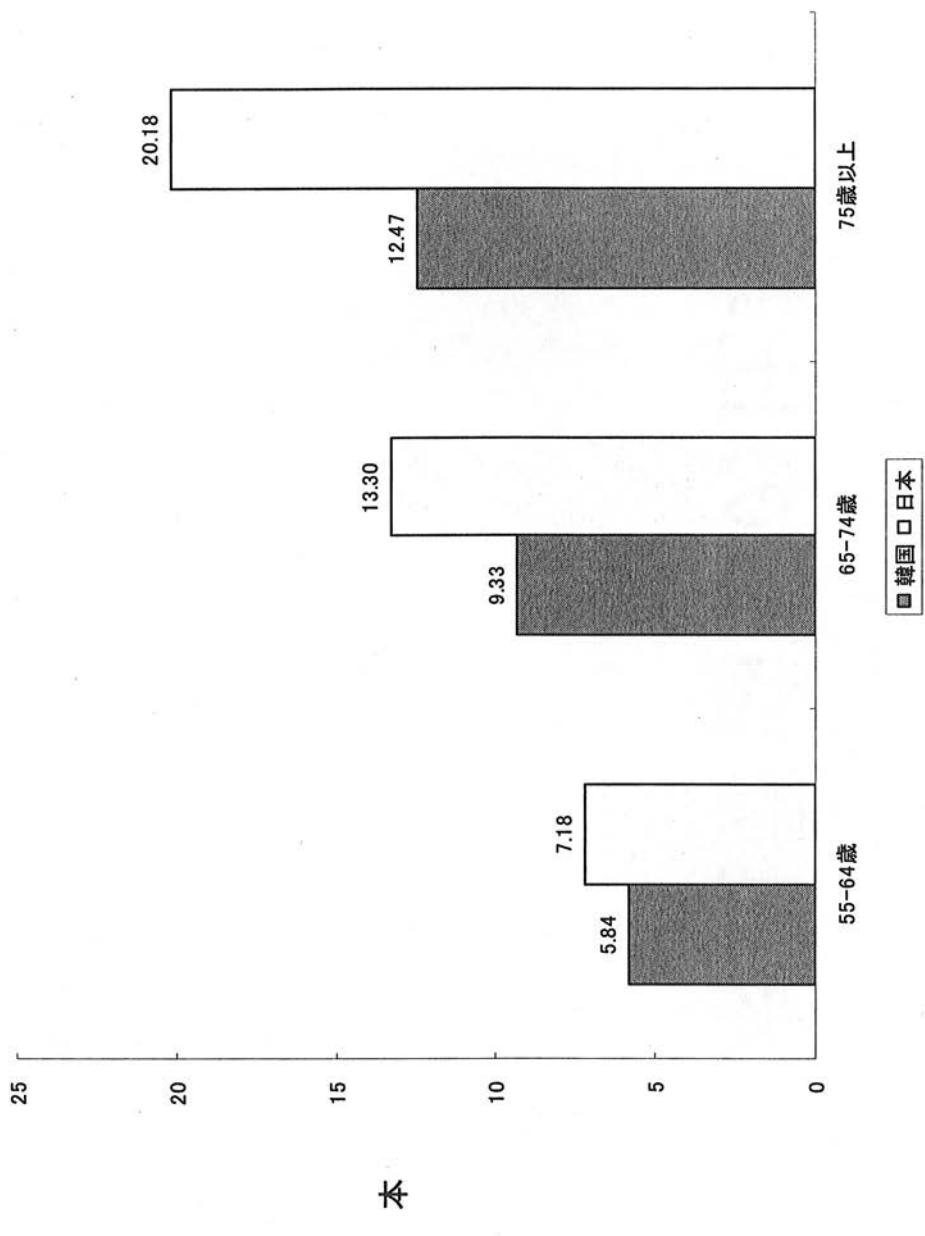
図III-18 日本と韓国との比較
歯齶食歴罹患率の比較



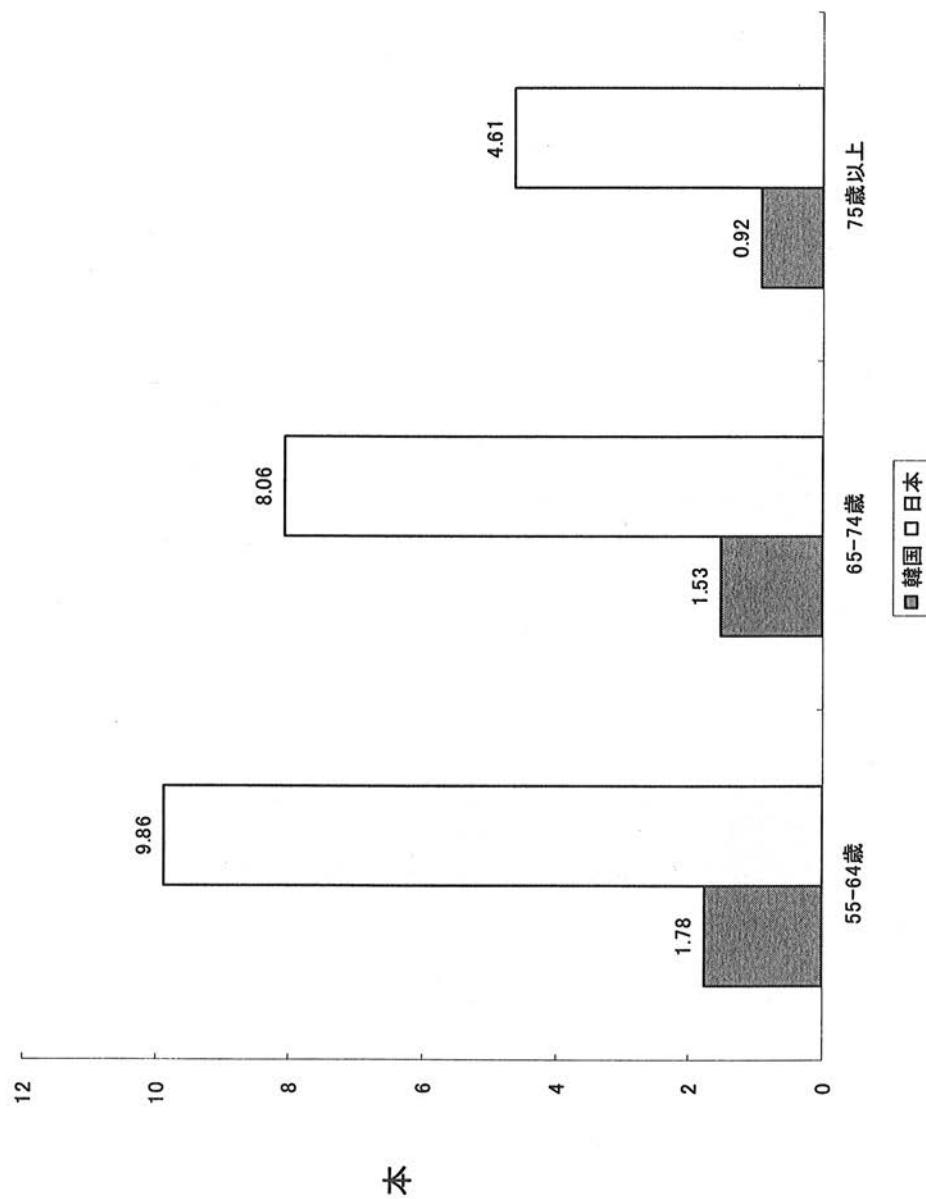
図III-19 日本と韓国との比較
未処置歯数の比較



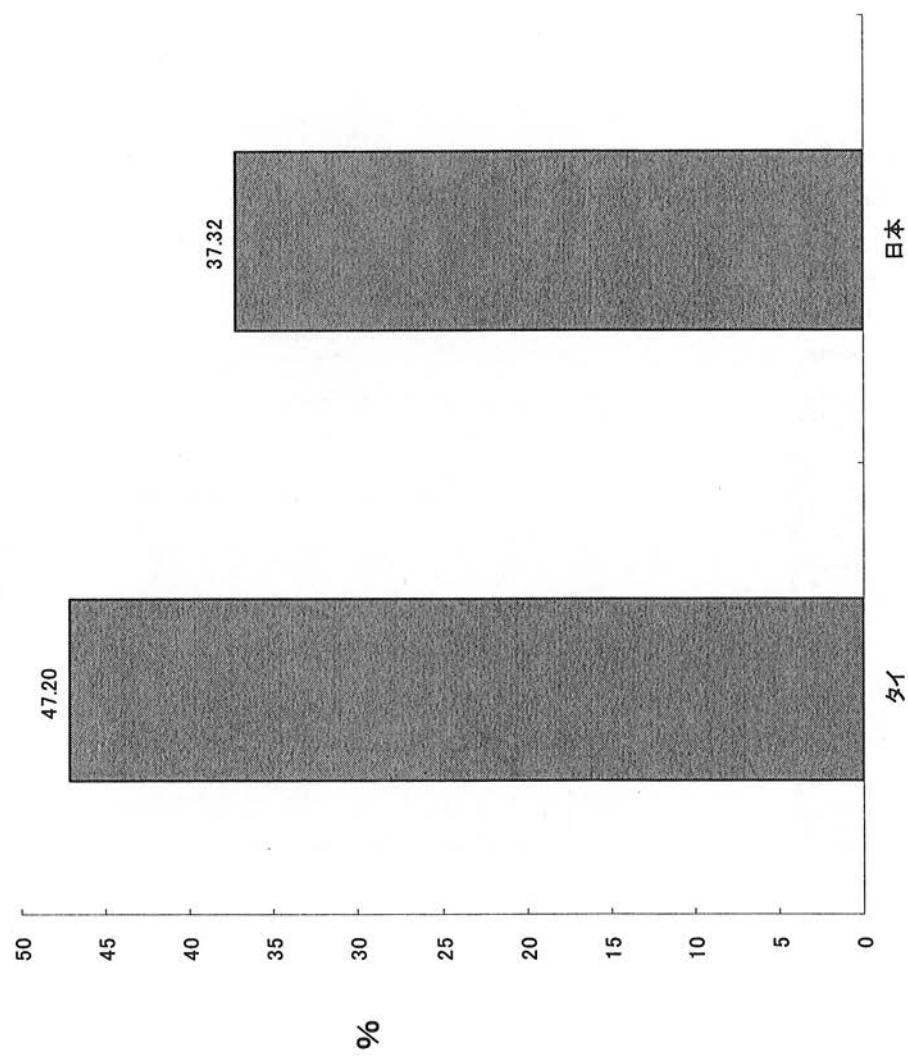
図III-20 日本と韓国との比較
喪失歯数の比較



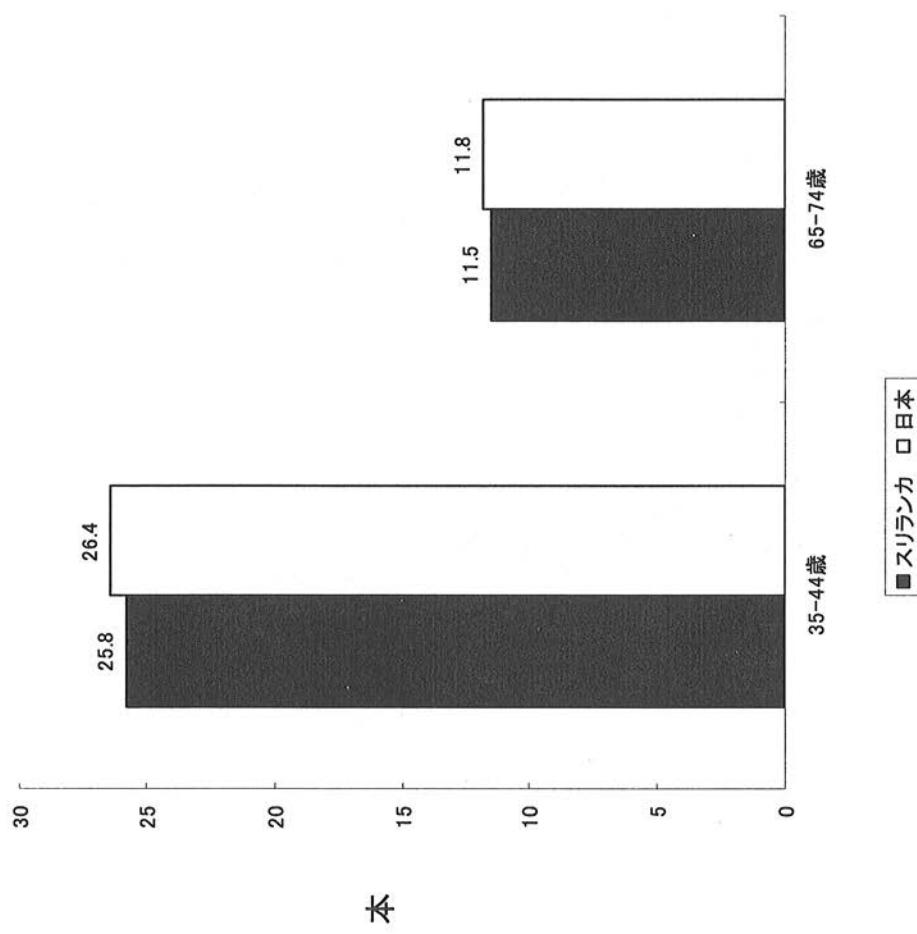
図III-21 日本と韓国との比較
処置歯数の比較



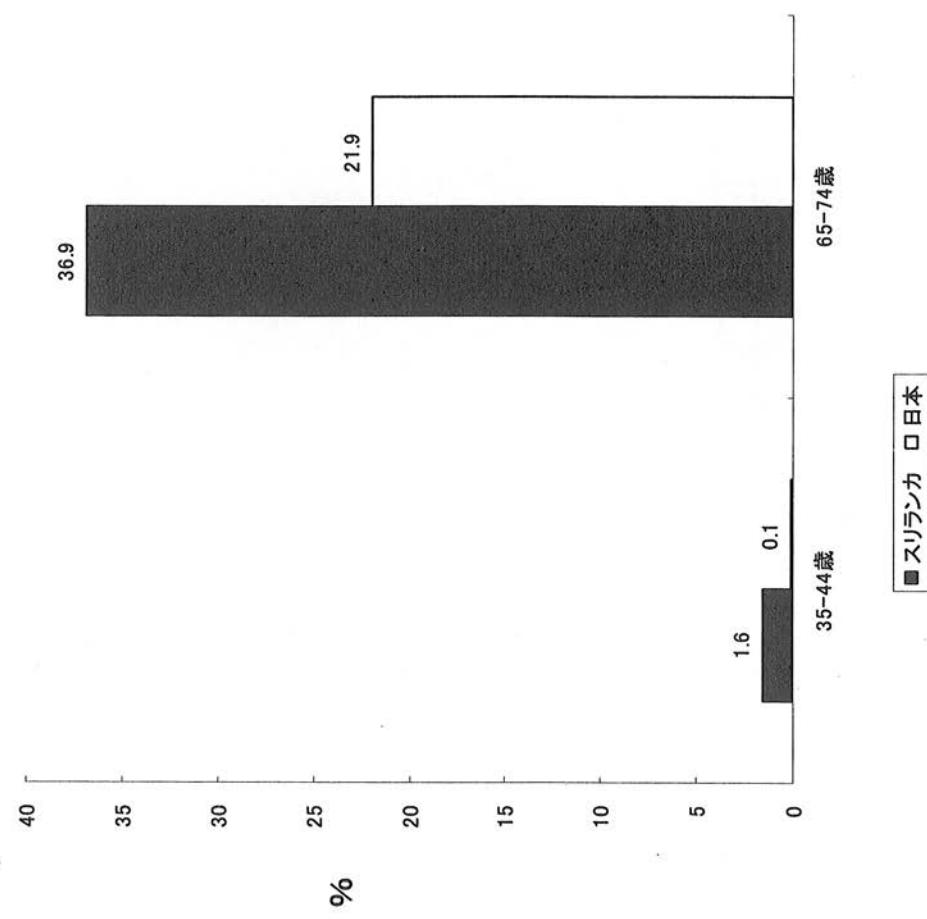
図III-22 日本とタイの比較
20歯以上あるものの割合



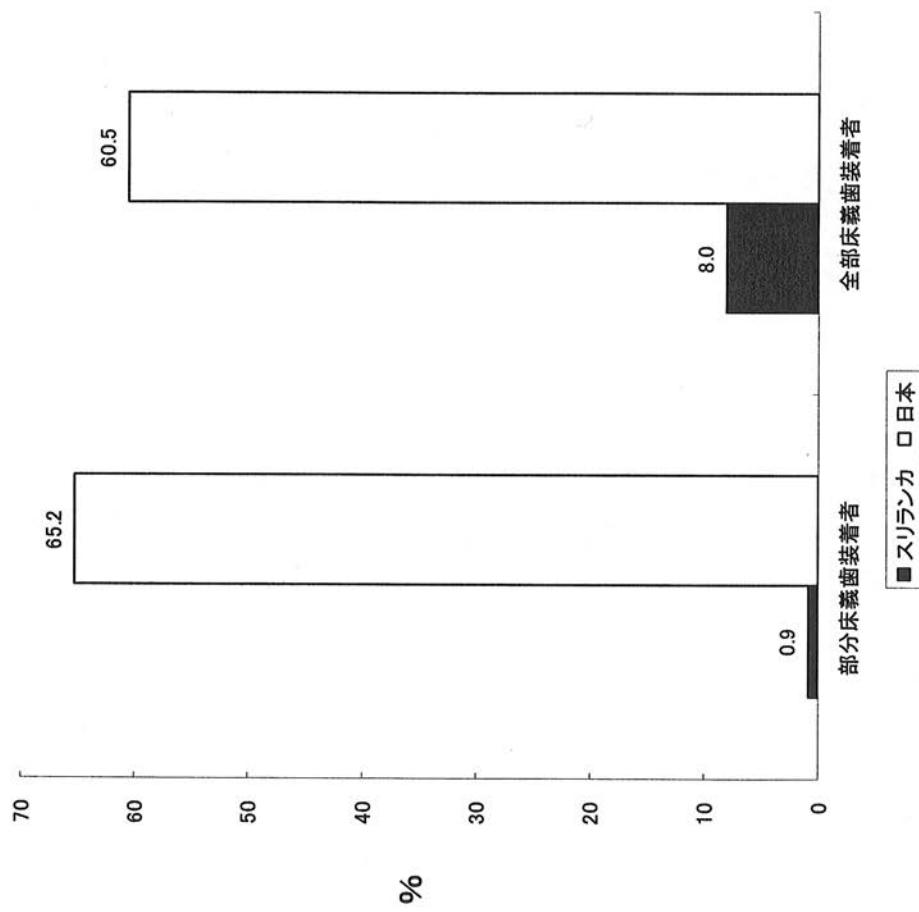
図III-23 日本とスリランカの比較
—人平均現在歯数



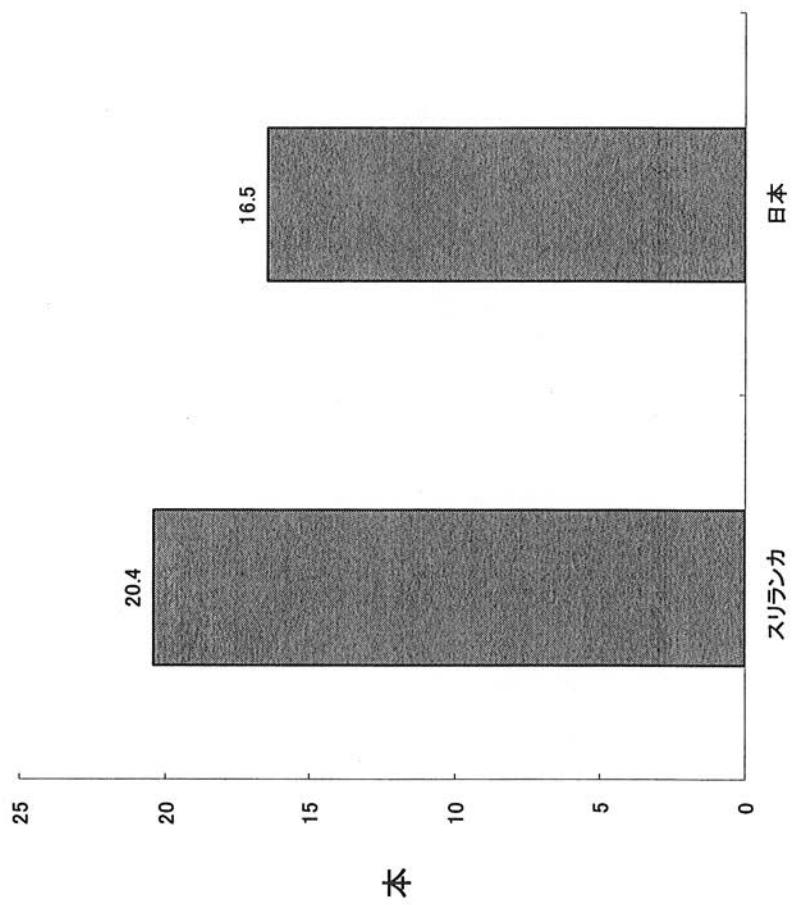
図III-24 日本とスリランカの比較
無歯齶者率の比較



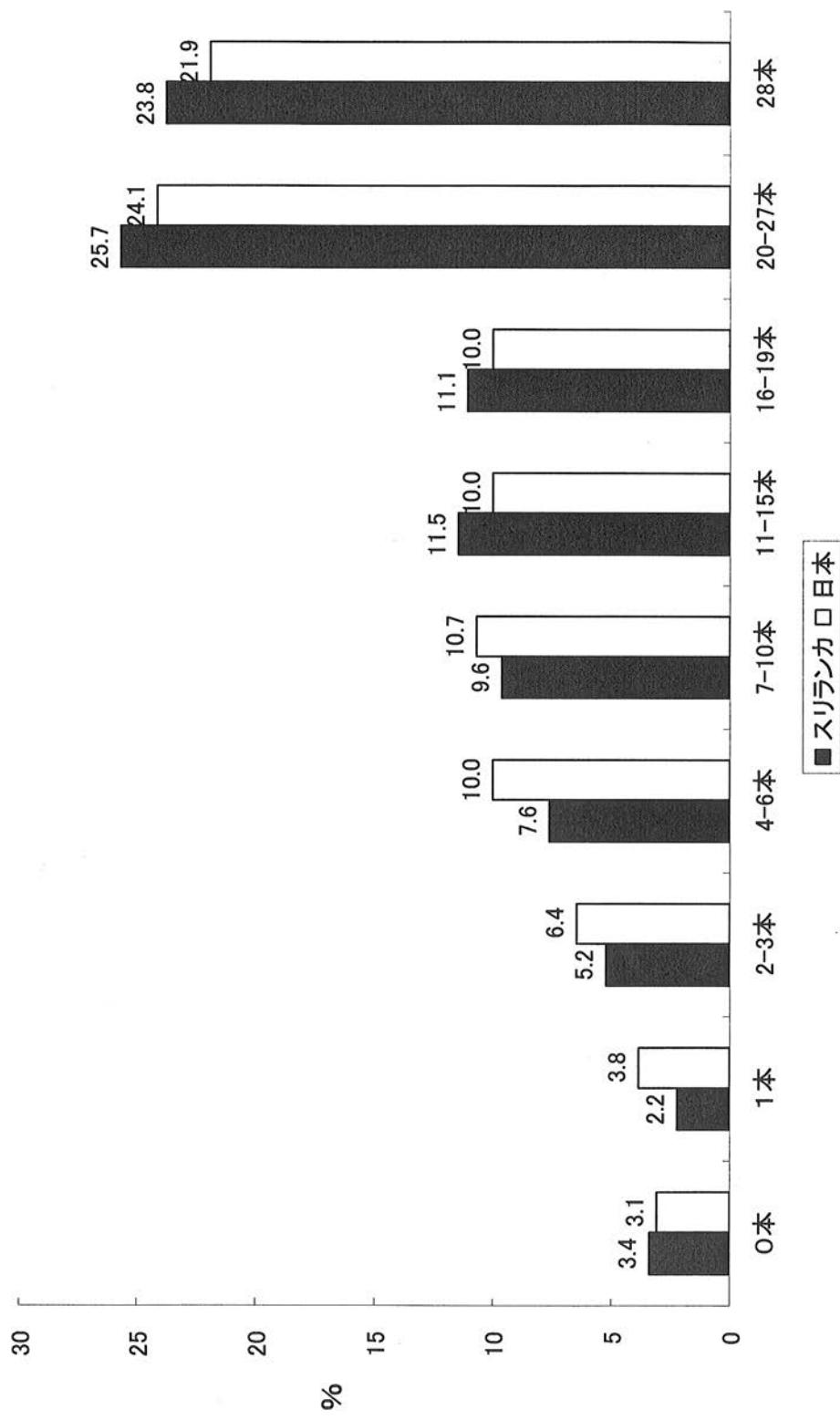
図III-25 日本とスリランカの比較 義歯装着者の割合



図III-26 日本とスリランカの比較
—人平均喪失歯数の比較



図III-27 日本とスリランカの比較
喪失歯数の割合



まとめ

今回の研究結果から、明らかになったこととして、高齢者の対象年齢の違い、口腔状況の評価基準の違いが挙げられる。研究 1 で明らかなように多くの国で 65 歳以上を高齢者としているが、調査対象が 65 歳のみ、65 歳以上、65 歳から 74 歳の 3 つの基準があり、この時点では比較を困難にしている。また 74 歳以上の基準でデータが存在するのはスウェーデンのみである。このような状況から日本で行われた 80 歳高齢者の調査、またその追跡調査として行われた 85 歳追跡調査を基幹として口腔内状況を含め、口腔内状況と QOL や ADL の関連を含めたデータを各国に提示することにより、高齢者の口腔保健データベースを構築してゆく必要性がある。

今回比較した高齢者の無歯顎者率では 10%から 78% と大きな幅があり、平均寿命、経済状況、医療制度等との関連を検討することによってその要因と分析する必要がある。特に中国の調査では無歯顎者率、DMFT 等を他国と比較した場合、口腔状態が非常に良好な状態と示していることが明らかとなった。この点に対する要因を分析してゆくことは今後の大きな課題である。研究 3 の結果から処置歯数で比較した場合、日本とアメリカが中国、韓国、タイ、スリランカと比較して処置歯数が多い傾向が認められた。要因としては保険制度や受診率、経済状況が考えられるが明確な結論を出すにはさらなる検討が必要である。しかし、欠損歯数を比較した場合、日本は諸外国と比較して特に少ないといった傾向は認められない。この点に関してもさらなる要因の分析が必要である。

本年度はアジアを中心としたデータの収集、整理がほぼ終了した。今後は欧米のデータを中心に資料収集を行い比較検討することによって日本の高齢者の口腔保健の状況がより明確になる。また、来年度は本年度に収集した基礎資料をもとに WHO、CDC と直接コンタクトをとり高齢者の歯科保健に関する適切な指標や基準づくりを検討する予定である。さらに得られた情報をまとめて、日本語と英語で 8020 推進財団のホームページを利用して国内外に情報発信するための基盤をつくる予定である。